

# 第36回日本分子生物学会・年会企画 アンケート 集計結果

ポジション別：大学・研究所等の研究者（助教、助手）

回答者数：202名

ポジションと研究分野に関する設問

回答者数: 202名

質問1. あなたのポジションは？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 学部学生	0	0.0%						
回答2 大学院生	0	0.0%						
回答3 ポスドク	0	0.0%						
回答4 大学・研究所等の研究者(助教、助手)	202	100.0%						
回答5 大学・研究所等の研究者(講師、准教授)	0	0.0%						
回答6 大学・研究所等の研究者(教授)	0	0.0%						
回答7 企業研究者	0	0.0%						
回答8 その他	0	0.0%						
合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。＜複数回答可＞

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 生物系	141	50.0%						
回答2 農学系	23	8.2%						
回答3 医歯薬系	107	37.9%						
回答4 理工系	6	2.1%						
回答5 情報系	4	1.4%						
回答6 その他	1	0.4%						
合計	282							

※割合は合計を母数にして算出しています

第1部 研究倫理と不正についての一般的な設問

回答者数: 202名

質問3. ライフサイエンスにおいて、研究不正は大きな問題だと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1  そう思う	174	86.1%							
回答2  ある程度そう思う	21	10.4%							
回答3  あまりそう思わない	6	3.0%							
回答4  そう思わない	1	0.5%							
回答5  わからない	0	0.0%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問4. ライフサイエンスにおいて、研究不正は極めて稀なケースだと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1  そう思う	14	6.9%							
回答2  ある程度そう思う	60	29.7%							
回答3  あまりそう思わない	67	33.2%							
回答4  そう思わない	54	26.7%							
回答5  わからない	7	3.5%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問5. 研究不正を目撃などしたことがありますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1  所属する研究室内で実際に目撃、経験したことがある	29	14.4%							
回答2  所属する研究室内で噂があった	13	6.4%							
回答3  近傍の研究室内からそのような噂を聞いた	65	32.2%							
回答4  具体的には聞いたことがない	92	45.5%							
回答5  回答なし	3	1.5%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問6. 研究不正は日本のライフサイエンスの現状や将来の進展に悪影響があると考えますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1  そう思う	141	69.8%							
回答2  おおむねそう思う	46	22.8%							
回答3  あまりそう思わない	13	6.4%							
回答4  そう思わない	1	0.5%							
回答5  わからない	1	0.5%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問7. 研究不正に対しては日本の現行システムは十分に対応できると思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 十分対応できる	2	1.0%							
回答2 ある程度対応できる	37	18.3%							
回答3 あまり対応できない	91	45.0%							
回答4 対応できない	58	28.7%							
回答5 わからない	14	6.9%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問8. 研究不正に対する当該研究機関による調査、報告は適当であると思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 適当である	15	7.4%							
回答2 おおむね適当である	67	33.2%							
回答3 あまり適当ではない	55	27.2%							
回答4 適当ではない	57	28.2%							
回答5 わからない	8	4.0%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 当該機関(大学、研究所など)	76	23.6%							
回答2 研究費の出資機関(文部科学省など)	71	22.0%							
回答3 第三者の中立機関	163	50.6%							
回答4 その他	10	3.1%							
回答5 わからない	2	0.6%							
合計	322								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 そう思う	68	33.7%							
回答2 おおむねそう思う	79	39.1%							
回答3 あまりそう思わない	28	13.9%							
回答4 そう思わない	5	2.5%							
回答5 わからない	22	10.9%							
合計	202								

※割合は合計を母数にして算出しています

**質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？**

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	38	18.8%						
回答2	ある程度そう思う	58	28.7%						
回答3	あまりそう思わない	59	29.2%						
回答4	そう思わない	30	14.9%						
回答5	わからない	17	8.4%						
	合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

**質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？**

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分だった	3	1.5%						
回答2	おおむね十分だった	58	28.7%						
回答3	あまり十分でなかった	67	33.2%						
回答4	十分でなかった	54	26.7%						
回答5	わからない	20	9.9%						
	合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

**質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>**

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	個人の問題	145	46.6%						
回答2	構造の問題	144	46.3%						
回答3	その他	22	7.1%						
	合計	311							

※割合は合計を母数にして算出しています

**質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>**

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	教育	129	47.3%						
回答2	厳罰化	99	36.3%						
回答3	その他	45	16.5%						
	合計	273							

※割合は合計を母数にして算出しています

第2部 科学論文不正疑惑についての本学会の対応と年会ワークショップに関する設問

回答者数：202名

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分だった	9	4.5%						
回答2	おおむね十分だった	77	38.1%						
回答3	あまり十分でなかった	35	17.3%						
回答4	十分でなかった	23	11.4%						
回答5	わからない	58	28.7%						
	合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	やるべきである	93	46.0%						
回答2	ある程度はやるべきである	71	35.1%						
回答3	あまりやるべきでない	14	6.9%						
回答4	やるべきでない	11	5.4%						
回答5	わからない	13	6.4%						
	合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	若手の倫理教育	80	17.1%						
回答2	PIの倫理教育	125	26.8%						
回答3	研究不正の背景	138	29.6%						
回答4	研究不正への対応策	106	22.7%						
回答5	その他	18	3.9%						
	合計	467							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	学会の責任者	5	2.5%						
回答2	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	112	55.4%						
回答3	トップジャーナルの編集者	42	20.8%						
回答4	研究費助成機関	13	6.4%						
回答5	その他	30	14.9%						
	合計	202							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問1. あなたのポジションは？

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。〈複数回答可〉

回答者 番号	その他記述
	記述なし



質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか? <複数回答可>

回答者番号	その他記述
※	専門の業者
※	不正を行った本人。
※	告発した人とされた人と被害を被った人と中立な弁護士が気が済むまで、話し合ったら良いと思う。
※	国際的な独立機関。日本人では無理。
※	基本的には第三者中立機関が適当であると考え。一方真偽の程は別として、取り上げ方の軽重が、不正の度合いによる以外に学会内の派閥・人間関係が影響している事例があるという噂を数件耳にしたことがある。このようなことを考えると、調査担当者がパブリックコメントがつけられるようなオープンな選定過程をへて組織された調査委員会によりなされる必要があるのではないと思われる。
※	現状では、基本的には(最終的には)雇用関係がある当該機関が行い責任を持つべき。また、必要に応じて関係分野の学会などが協力/共同調査を行う。特に当該機関において近い研究分野の人が少なく、研究内容について十分な調査を行えない場合は、学会が積極的に関わるべき。また、〇大〇〇事件や〇大〇〇事件のように、当該機関にちゃんとした調査/処分能力が無い(ちゃんとした調査/処分をしないで済ませようとする)場合も、学会が積極的に関わるべきだと思われる。将来的には、外部中立機関が行うべきであるが、その場合、当該機関に対して強制力を持てるようにする必要がある。
※	関連学会による調査(出来れば公開)
※	上記3機関が独立して調査し、報告する必要がある。
※	毎回第三者調査委員会を作るのは難しくても、内部の調査委員会が適切かを評価する外部組織があればいいと思う。
※	そもそも本アンケートにおける不正の定義するところの申請書は一般研究者には閲覧できないと思いますが…論文捏造に対処するのは、まずpeer reviewをした科学者と編集者、出版社などでは無いでしょうか。不正が事実であれば当該研究者は所属機関から社会的制裁を受けるとは思いますが、それ以上に調査が必要であるという意味でしょうか?逆にそれは何のためでしょうか?質問の意図がよく分かりません。

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	仲間内の審査では、「自分に火の粉がかからない様に」という様な考えが出て、公正で中立な判断がなされないから。
※	そう思う	大学＝教授会メンバーが調査すると、誰が実際に捏造したのであれ、とかげのしっぽ切りで助教レベルの弱い立場に責任を押し付けられるのが目に見えている。また捏造によって研究費が目的外に無意味に使用されたとなると、大学の責任も関わってくるであろう。大学が自らを罰することなど不可能。ORIが必要。
※	そう思う	客観的視点から、明らかにおかしい点(図表のねつ造など)を見つけ出すには、全くの部外者が良いと思われる。その後、関係機関による、科学的視点をふまえた調査が行われるべき。
※	そう思う	研究をしなければならない義務のある研究者が他人の研究不正の調査を行うことで時間を失うことは甚だ理不尽である不正は犯罪ととらえるべきで、警察権限による調査が必要だ
※	そう思う	取り締まりがない→競争的資金の不正流用→予算削減→日本のライフサイエンス研究の衰退
※	そう思う	所属機関による調査の場合、調査を行う研究者の時間が無駄。専門の機関を設立するべき。
※	そう思う	中立を保つことが重要であると思う。
※	そう思う	日本人同士で取り締まりが無理なことは、これまでに実証されている。国際的な独立機関に調査をしてもらう必要があり、研究不正の当該機関と出資機関、および関係学会がそれぞれ責任を持って調査を監督する必要があるが、きちんと監督しているか監督する機関が必要かもしれない。
※	そう思う	研究不正の調査を当該機関が行っているように見えても、調査結果が出るのに時間がかかったり、いつの間にか調査が立ち消えており、外部からの適切な圧力が必要であると考えから。
※	そう思う	不正を調査するには専門のノウハウが必要なはずで、普段は研究をしているような人たちがそのようなノウハウを持っているはずもなく、きちんと調査をするには莫大な時間を要するため。
※	そう思う	大学内だけでは中立性が保てないと考えるため。
※	そう思う	告発する側の立場として、外部中立機関に告発するほうが望ましいと思われる。
※	そう思う	中立した機関による偏りのない調査は必要だと思います。統一的な評価基準に基づいて調査されるべきだと思います。
※	そう思う	内部のシステムでは、きちんと調査できるか疑問なので。
※	そう思う	所属機関は身内を調査することになり、またその機関にとっても不正を認めることは不利益となるので、積極的に調査されないのではないかと感じる。
※	そう思う	研究の正当性が得られやすいのではないかと考えるため
※	そう思う	本家ORIよりも、(マンパワー、予算ともに)もっと大きな組織が必要だともいます。また、国税局のマルサのような強制捜査権・逮捕権などを与えられたいわゆる「Gメン」のような組織にしないと機能しないとおみます。
※	おおむねそう思う	関係機関による捜査では中立性に限界がある。第三者、かつ、ライフサイエンスに関わった(研究)経験のある、専門の調査官が必要では？
※	おおむねそう思う	中立性と徹底的な調査が必要だから。身内に近い人間がいると手心が加わったりする可能性がある
※	おおむねそう思う	不正のケースは増加していると感じる。所属部局での調査岳で対応しきれなくなって来ているのではないかと。第三者による調査で隠蔽の可能性を低減できる。不正への抑止力を期待。一般社会のバイオ研究への不信感を除くためにも必要なアクション。
※	おおむねそう思う	中立という機関は有り得ない。何らかの政治的影響がないだろうか。
※	おおむねそう思う	不正を取り締ると言っても、それを専門にする別の研究者以外が見破るのは極めて難しいのではないかと感じます。その結果、その機関に協力を強いられて難儀するのは現場の不正をしていない研究者です。取締を本業にするとよりも、知的な集積を行い総説・解説書を作成・作成調整する機関としてはどうでしょうか。それらの業務の遂行の中で、告発の受付と異常な実験結果の集積・分析をしていく方が建設的かと思えます。
※	おおむねそう思う	同一施設内の調査委員・調査対象者の利害関係排除は困難
※	おおむねそう思う	大学や所属学会では、日本の場合、不正を疑われている先生に気兼ねをしているのか、調査もおざなりで終わってしまうことがほとんどのよう。また、大学側も、自校の名誉のためか、調査をすぐ開始するのではなく、外部圧力によって、やっとうるという感じがほとんど。これではあまり抑止力にもならないので、疑うべき告発や報告があった際に、すぐさま動けるような第三者機関があった方が良いのではないかと感じます。

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	おおむねそう思う	1. 当該機関において近い研究分野の人が少なく、研究内容について十分な調査を行えない場合がある。2. 当該機関にちゃんとした調査／処分能力が無い(ちゃんとした調査／処分をしないで済ませようとする)場合がある。当該機関は、ことを荒立てないで穏便に済まそうとする傾向があるので、外部中立機関の方が適切。
※	おおむねそう思う	最近の○大○研でおきた不正では、撤回された論文の第一著者らが、どのように関与したのかまったく明らかになっておらず、実際に誰が不正行為を行ったのかもわからない。これでは、対応も防止策も不十分なものになる。これは、第一著者らのうちの数名は、他大学に転出しているためであると思う。一大学が調査の主体になると、他大学に転出した研究者に対して調査がしにくくなるのだらうと推測する。故に、第三者機関が調査するべきである。
※	おおむねそう思う	利害の多少に関わらず関係があれば手心を加えたいのが心情なので、中立的立場はさほど求めなくとも第三者機関が望ましい。
※	おおむねそう思う	甘えや妥協を許さない環境作りが肝要であるが、一方で、誹謗・中傷に利用されないように注意しなければならない。
※	おおむねそう思う	内部調査機関だと身内をかばう可能性があり、真相が曖昧になる危険性がある。
※	おおむねそう思う	専門の機関が無いと「中立な調査委員会」と称しても実は(外部だけれど)内輪の人間を集めただけになる可能性がある。
※	おおむねそう思う	個別のケースごとに調査の担い手や基準が異なることは調査結果に対する信頼性にとって良くないと考えます。
※	おおむねそう思う	当該機関内部での調査では、調査自体に不正が発生してしまう可能性がある
※	おおむねそう思う	望ましいと思うのだが、新たな独法の設置や行政コストがかかるとなると困難かと思う側面もある。取り締まる機関も必要であるが未然に防止出来る様さらなる工夫が必要だと思う。
※	あまりそう思わない	新しく機関を設置するよりも、当該機関の調査が適切であるかのチェックをする方が現実的であると考える。
※	あまりそう思わない	ORIのような外部機関による調査に無制限に賛同する意見を聞くが、アメリカの研究者にはかなり評判が悪いという話も聞く。そのあたりもきちんとした調査をやってから考えるべき。
※	あまりそう思わない	日本において真に中立な機関を設置することは困難だから。
※	あまりそう思わない	日本の場合、そういう機関をつくると、天下り役人や定年退職後の偉い先生方の身分保障的機関になりがちだから。
※	あまりそう思わない	そのような機関が不正の有無にかかわらず研究機関を取り締まる(監視する)と、研究機関側が萎縮するし、それに伴う手続き等が発生して面倒くさい。
※	あまりそう思わない	現在の日本では、そこまで、不正が横行しているとは、私自身は、思っていない。常設の機関を設立すると、取り締まりのための取り締まりを行うようになると思われる(現在の警察と同じ)。機関の存続の意義を見出すためには、不正を挙げなければならないからである。
※	あまりそう思わない	不正な内容の積み重ねでは研究成果の積み上げは無理である。研究者の自主・自律がなければ自然と淘汰はなされるはずであり、過剰な制度がもたらす閉塞感、少なくとも自由闊達な本学会の伝統を損ねてしまうと思われるので、なるべくならば避けたい。
※	あまりそう思わない	外部機関の調査を受け入れることになると大掛かりになりすぎるし、効率が悪すぎる。本来このような調査は、内部の人間でなければ調査し得ない。
※	あまりそう思わない	ORIの様な機関は、無いに越した事はない。研究不正が日常茶飯事なのであれば必要かも知れないが、そうでない現在は、常設して警察の様に取り締まるのは一寸やりすぎだと思う。
※	あまりそう思わない	日本の場合、職業としてそれを行う組織を作るとその組織が不正を働くケースが多いから。
※	あまりそう思わない	大学が調査委員会で原因究明を行っているから基本的には必要ないと思っている。ただし、大学によっては機能していないところがあると思うので、不十分な場合は必要かも。
※	あまりそう思わない	取り締まるようにすると、自由に新しい発見に挑む研究の雰囲気は損なわれることにならないかは懸念である。
※	あまりそう思わない	ORIは国際ジャーナル全般を調査しているのでしょうか？ならばORIに任せておけば良く、日本にも併設する意味は無いと思います。
※	あまりそう思わない	設立しても、全く中立な人物が調査にあたるということは難しく無意味かもしれないと思う。
※	そう思わない	金の無駄。取り締まっても根本解決しない。また、先行事例を調査することも意味はない。現状では、不正しやすい環境が不正を取り締まるのではなく、普通にやっていたら正しい研究しかできないような方向をみんなで作ることを考えるべき。
※	そう思わない	どうせ設置したとしても天下り受け入れ機関と化すだけ

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由
※	そう思わない	研究不正の取り締まりは、本来ならなくても良い(ネガティブな)仕事だと思うので、そのような機関の設置に予算を費やすことには賛成できない。
※	わからない	ORIの詳細が分からないのでコメントできない。その機関があまりに力を有するようなら、別の危険が生じると思う。
※	わからない	もし作るのであれば、研究者もしくは研究機関の環境を良く知る人材を含む団体にしてほしい。白黒判定まで関係者が微妙な立場に立たされるため、内情を理解せずに審査されると、関係者が精神的に追い込まれ、自殺するケースがでる。
※	わからない	「研究不正」の追究が、本当に研究の不正を追及するように機能するなら良い。しかし、なんらかの理由で標的となった研究者が、周りに陥れられるために、「研究不正」をでっち上げ、「合法的に」排除されるシステムが構築されると困る。大学の「ハラスメント委員会」などは、そのように機能してしまうことがあるため。
※	わからない	ORIがどの程度機能しているのかわからない
※	わからない	アメリカのORI(Office of Research Integrity)が具体的に何をどうしているのかわからないので判断できません。
※	わからない	ORFを初めて知ったので。
※	わからない	ORIについて知識がないので。



質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	不正を審査する機関ではなく、不正の存在を告発、あるいは、審査以来をする窓口機関として必要である。
※	そう思う	中立な立場に近いこと、公正な調査が期待できるから
※	そう思う	当該機関以外の研究を理解する団体の関与がないと調査の妥当性の確保が難しいと考えるから。
※	そう思う	調査権限を有していなくても出来る範囲で対応すべき。
※	そう思う	分生が主導権をとって不正を許さないという態度を示すことは大事だと思います。しかし、近年の〇大の有名教授の件では、不正問題の要職についていたにもかかわらず、なにも話さないのものは無責任そのものだと思います。
※	そう思う	少なくとも〇〇を放置するな。分子生物学会の身内でしょ？〇〇研で悪事を働き、ノウハウとポジション／予算を得ている人間を放置するな。ところで調査権限って何だ？調査をしないための言い訳？やる気あるの？無いの？無いならどうしてやる気あるフリをするの？調査権限無くても調査できる部分はあるでしょ？ボランティアで調査してる人もいますじゃん。なんで調査しないの？調査したら誰が困るの？金なら十分すぎるほどあるでしょ。分子生物学会としては、研究不正は良くないことだと思いますか？その点、はっきりして欲しい。
※	そう思う	1. 当該機関において近い研究分野の人が少なく、研究内容について十分な調査を行えない場合がある。2. 当該機関にちゃんとした調査／処分能力が無い(ちゃんとした調査／処分をしないで済ませようとする)場合がある。
※	そう思う	所属機関による内部調査は結局、不正をした人間を守ろうとする傾向があるように感じる。なぜなら、機関にとって不名誉なことへの程度は出来るだけ低い方が良いというさじ加減が働くから。利害関係のない学会が調査する方が良い。
※	そう思う	科学研究は研究者の倫理観の元に行なわれており、今後もそうであり続けなければならないが、現状研究不正が行われている事実が多く報告されている。各研究分野のトップに位置する学会がそのような不正の上に成り立っているのは発展する分野も発展しないので、残念ながらもまずは学会が率先して研究者の倫理観を監視する必要があると思われる。
※	そう思う	たとえば会員の処分を考えた場合、独自の調査組織をつくり、調査に関わることが必要だと思われる
※	そう思う	学会も大学も対応が甘すぎます。
※	ある程度そう思う	専門的な部分でデータ解釈等のヘルプが可能
※	ある程度そう思う	第三者となる中立的な機関も必要
※	ある程度そう思う	不正が明らかになった際に設置される第三者の調査機関が学会をベースにした物でも良いのではないかと思う。
※	ある程度そう思う	調査に関わる以前に、同学会で口頭、ポスター発表があった研究、所属研究者の研究に不正の疑いが認められた場合は、学会からも社会、大学、政府に対して疑念があり、調査が必要であることを主張すべきだと考えるから。
※	ある程度そう思う	Q10とほぼ同じ理由であるが、所属学会が速やかに動けるのであれば、第三者機関よりも、所属学会の方が、より専門的に調べることができるはずで、その方が望ましいとは思う。
※	ある程度そう思う	学会の機能のどのくらいを割くのかによる。
※	ある程度そう思う	比較的「中立の第三者機関」に近いので
※	ある程度そう思う	不正を働いたと思われる研究者の専門分野でないとわからないこともあるので、ある程度そう思う。
※	ある程度そう思う	前述と同じく直接でなくても評価や提言をすべき。
※	ある程度そう思う	研究者の所属するコミュニティが、不正は認めないという姿勢をとるのは重要。
※	ある程度そう思う	現状として、第三者の中立機関がないので、学会が関与するしかない。
※	ある程度そう思う	その分野の専門家としてデータの信頼性について最も適切に判断できる。
※	ある程度そう思う	研究者コミュニティの自律性に鑑み、複数の関連学会が協力して、外部中立機関の設置や運営に携わる形式がよいと思う。
※	あまりそう思わない	学会はあくまで学会なので、何の権限があっても調査が許されるのかといった反発が出る可能性がある
※	あまりそう思わない	やはり身内が行なうのは…。「力」がある先生が不正をした場合に、強く行動できるかなど疑問。
※	あまりそう思わない	現実的に手間と予算を考えると無理だから。ただ、学会として、ある程度不正を防ぐための手立てを考えるとすれば、学会の主目的は研究者間の情報のやりとりと世の中に対しての情報の発信であるので、学会の年会などでの発表の内容については、例えば研究発表に際して元データもある程度公開させる、あるいは、各発表課題ごとに第三者の研究者に元データを開示させ確認させる、ぐらいの条件をつけることは可能かもしれません。また発表をスポンサー制にして、他の先生の推薦がないものは発表させないというのも抑止力にはなると考えます。

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	あまりそう思わない	専門知識として盗用を発見するには向いていると思うが、どうしても近い分野だと第三者としての立場とは違ってくると思うので。
※	あまりそう思わない	仮に研究不正があったとしても、それは、やはりごく一部で、そのような結果やそれに基づく学説は、他の研究者による再現が不可能であれば、支持されず、淘汰される。オネストミステイクを含めて、このようなプロセス自体がサイエンスの一部であると思う。（勿論、不正は決して許されず、研究活動の成果によって評価される研究者にとって、大きな問題ではある。）
※	あまりそう思わない	不正の検証は、第一義的には、学会の発行する学会誌に掲載の論文に責任を持つことでよいのではないのでしょうか。Q10に述べるように、Genes CellsのIFを考えると、Established Scientistなどに多くの総説・解説を書いて頂く事はよいことだと思います。
※	あまりそう思わない	学会というのは流動的な寄り合いだと思うので、調査そのものに関わると責任者が明確にならないと思う。調査結果の判定や、調査方法についてのアドバイザーとして関わるのが望ましいと思う。
※	あまりそう思わない	特定領域の“常識”で判断されるべきではないと思われるので、ある程度大きな集団に対して公平に調査・審査できることが必要と考えています。
※	あまりそう思わない	疑惑のある研究者・論文について第三者機関に調査を要請したり、研究手法などについて意見を述べるができる研究者を指名することは良いと思うが、調査そのものに関与することが良いとは思わない。
※	あまりそう思わない	むしろ、将来につながる根源的な対策に取り組むべきと思う。例えば、研究者としてのリテラシーを養う教育プログラムについて研究し複数のモデルを構築し、それらを導入してもらうような建設的な活動に取り組んだほうがよいのではないかと。こうした活動は、大変なエネルギーを必要とするので、種々の分野において研究業績としてきちんと評価されるような仕組みにすることも必要。
※	あまりそう思わない	学会も大学と変わらず閉鎖的な気がする。外部中立機関を設置し任せの方が良いと思う。
※	あまりそう思わない	関連学会は利害関係者が多いので適正な調査ができないと思う。
※	あまりそう思わない	学会の権限には限りがあるとおもいます。
※	あまりそう思わない	所属研究者の研究成果が学会に属さないのであれば研究行為の責任も同じなのではないのでしょうか。
※	あまりそう思わない	学会が不正となるグレーゾーンを回避するためのガイドラインなどを設定するのはよいとして、取り締まるのは仕事ではないと思う。
※	あまりそう思わない	調査…？何をどうしたいのかわかりませんが、「不正発生」>「関係者処分」以上の成果を得たいということでしょうか？どこかで聞いた話ですが犯罪というのは起こるべくして起こるものではないと思います。常に一定の割合で発生し、相対的な善悪感にも依るようです。PCとは違ってヒトである以上、不正、というか、正規分布から外れたエラーは生じるでしょう。エラーを0にしたいというのは如何にも日本人らしい潔癖主義というか過剰な完璧主義と私は思います。
※	あまりそう思わない	全く中立な人物が調査にあたるということは難しく無意味かもしれないと思う。
※	そう思わない	学会の重鎮クラスのラボでも、捏造疑惑の醜聞が絶えない状況で、学会に期待することは難しい。
※	そう思わない	学会には科学的にポジティブな内容を推進する能力はあるが、ネガティブな内容を裁く能力は無い調査権限が無いなかで出しゃばらない方がよい
※	そう思わない	○大・○○研究室の不正の件でも分子生物学会が不正摘発に役に立ったと思えないから。
※	そう思わない	研究不正の調査など学会の仕事ではないと思います。他にすべきことがあると思います。
※	そう思わない	第三者機関でなければ、結局馴れ合いになる可能性があり、効果がないと思う。
※	そう思わない	学会は研究に関する意見交換の場なのだから、不正の調査などは越権行為である。
※	そう思わない	学会が行うべきこととは少し違う気がする。
※	そう思わない	中立性を維持するため。
※	わからない	知り合い同士のなれあいに終わってしまうのでは？
※	わからない	見解が統一されないから。
※	わからない	分子生物学会など、関連学会から委員を選出し、調査するも、結局顔見知りの人選になってしまう可能性が挙げられる。
※	わからない	どのように関与すれば研究不正の調査に良い効果を与えるのか、イメージできない、“学会”でなければ果たせない効果もイメージできないので。
※	わからない	いろんなケースがあると思う。

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	おおむね十分だった	真相は分からない点が多いが、現在の方法だとこれが限界かと思われる。
※	おおむね十分だった	○大、○○教授のケースなど、見方によっては行き過ぎといえるぐらいきつい処分ができる事案もある。自浄機能はある程度働いていると見る。一方で臭いものに蓋という対応がなされた噂も耳に入る。特に医学系か？ 表に出てこないため処罰されなかったケースには問題があると思う。
※	おおむね十分だった	十分に大きい大学では負担も大きいし、中立的な対応で出来かねるので、外部の介入が必要と考えます。
※	おおむね十分だった	ケースによるので、全てが万全だったかはわからない。
※	おおむね十分だった	大学によると思う。大学によっては対応が不十分だ。徹底的調査でなかったり、処分が甘かったり。そもそも名前も匿名にするのはどうかと思う。
※	おおむね十分だった	関係者が自ら、あるいは当該所属機関によって処分されている筈です。
※	あまり十分でなかった	調査に関わる教職員は、それぞれの仕事を抱えながらの調査になる為、説明や対応に時間がかかってしまう。その間に、真相がうやむやになってしまうこともあるのでは？
※	あまり十分でなかった	見つかっていない研究不正が多数あることが予想されるから。
※	あまり十分でなかった	繰り返されると言うことは予防できていないと言うことだと思うので。
※	あまり十分でなかった	追試をして正しくないことを証明していない。
※	あまり十分でなかった	最近の例で、○○大学は調査・発信したものの、疑惑論文多数を残したまま、研究者が移籍したケースがあり、調査が滞ってしまっている。○○大、○○大は調査に時間がかかっている。とくに何も聞こえてこない。
※	あまり十分でなかった	筆頭著者と責任著者など、誰がどのように不正に関与したのかが本当に調査しきれたのかが外部から見ているとよくわからない。立場の弱い人間を守る仕組みがきちんとできて欲しいと思う。
※	あまり十分でなかった	調査の結果に何らかの疑念がのこることが多いような印象を受ける。
※	あまり十分でなかった	不正発覚時はマスコミなども飛びつき大騒ぎするが、調査の結果や不正を働いた研究者がどうなったのかなどは余り報じられず、再発防止の対策がとりにくい印象がある。
※	あまり十分でなかった	大問題になってから対応を取っていたのでは遅いと思う。
※	あまり十分でなかった	一部の大学では、非常に素早い対応を取っているが、一方で、疑惑が告発されているのに、何も動いていないという大学もいくつかあると聞いている。
※	あまり十分でなかった	おそらく、大学などの研究機関により、調査の仕方や対応のレベルが異なると思うから。
※	あまり十分でなかった	人事の側面しか対応できていないように思います。不正防止の観点で十分に対応できているか疑問です。
※	あまり十分でなかった	当事者からの声を聞かせてほしい
※	あまり十分でなかった	所属研究機関の対応では、自浄作用が働かないのではないかな。世間の信用も得られない。
※	十分でなかった	内部で表に出ないようにするケースが多く、不正を行った者が真に反省していないから。
※	十分でなかった	学界での力が強い者の不正は「やった者勝ち」になっているように感じられる。
※	十分でなかった	身内の不祥事ということで、大学ぐるみで、隠蔽に走っている感がある。大学に限らず、日本の組織はそういう傾向があると思いますが・・・
※	十分でなかった	○○の件で、○○医大の最初の調査がきわめて不正である。
※	十分でなかった	曖昧に解決されている
※	十分でなかった	調査結果ができるのが遅い。中間発表などすべき。
※	十分でなかった	きちんと公表されずにうやむやなままのものもあるのでは？
※	十分でなかった	大学の調査としては警察権限もないのでそれ以上は無理だが、研究不正、雇用の不正（出来レース）などは大学として詐欺罪で被告を起訴すべき。大学不正の問題への対応は実質的に教授会（あるいは教授会を代表とする不正対応の委員会）で決定されているが、大学が内部の教員をかばって逮捕者をださないようにするという暗黙の方針がまかり通っていることが問題。辞職すればオッケーというのが現状。
※	十分でなかった	一人が不正をする事で他の多くの研究者に対して迷惑をかけているのに、対応が甘すぎる。一度不正をした人は必ず同じ不正を繰り返すため、懲戒免職にして研究の道を断つべき。
※	十分でなかった	○○大学のように、トップとして君臨し続けた悪い例がある。まったく機能していない。偉きゃクロでも白になる。by 逆転イッパツマンちなみに理事長の所属機関だが、どう思ってる？所属機関では、調査委員を自分の息のかかった人間で固めれば、簡単に不公平なジャッジにできてしまう。独立性の確保が重要。研究不正者はなんとかして独立性を歪めようとするわけで、、、○○大では不正者が勝ちちゃったんだよね。
※	十分でなかった	たとえば当学会員の○○○氏と関係者はきちんと処罰されるべきであるし、研究を行うことは許されない。現状は極めて不公正である。

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	十分でなかった	○大○○事件では、ちゃんとした対応が取られたと思います。しかしながら、○大○○事件や○大○○事件ではまともな対応が取られていません。○大○○事件では、調査前の辞め逃げを許すなど、○大○○研自体が隠蔽工作を行なっているとみなされても仕方がないと思います。
※	十分でなかった	上で例に挙げた、○大の○○研の件が非常に気になる。結局誰が図の変更を行ったのか明らかにされていない。
※	十分でなかった	不正を行った研究者に対して調査、処分が十分に行われていない。
※	十分でなかった	その後の処分や経緯に関する情報が明らかになった気がしない。ただ、この傾向は日本の全てのマスメディアで取り上げられた記事にも共通する問題のようにも思う。
※	十分でなかった	繰り返しになるが、所属機関による内部調査は結局、不正をした人間を守ろうとする傾向があるように感じる。なぜなら、機関にとって不名誉なことへの程度は出来るだけ低い方が良いというさじ加減が働くから。
※	十分でなかった	下の研究者は簡単に辞職だが、上は絶対にそうならない。
※	十分でなかった	研究不正の背景や環境が明らかにされていない。
※	十分でなかった	ねつ造がかなり疑われる例においても、大学として公式の見解を述べていない。
※	十分でなかった	研究室の所属メンバーが厳しく実質的に処分されるだけで、実際の成り行きが分からない。
※	十分でなかった	懲戒免職だけでなく、MDなら免許剥奪処分が必要。MDは抜け道がありすぎる。クビになってもしゃあしゃあと診療してます。
※	わからない	一旦、世の中に公開されたデータは、事実として定着し続けている。それに対しては、対応は十分になされていないと思う。研究者への社会的責任の追及にばかり、意識が向いていないか？
※	わからない	ケースバイケースなので。
※	わからない	報道されないのでフォローしていない。自分で調べることもない。
※	わからない	不正者の処分などは評価できますが、どの部分が不正であったかの公表がなされていないので「わからない」とさせていただきます。
※	わからない	ひとつひとつの案件については、様々な要因があり、PIの懲戒や解雇、研究費を返還するくらいしか、処分がない。しかし、大学などの組織としては、被害を最小限に抑えようとする力が働くのではないかと思う。明らかな証拠がある場合を除いては、証明が難しい。また、研究機関でのすべての研究者に対する倫理的教育が重要だと思う。
※	わからない	情報がないので知らない。
※	わからない	大学がどのような対応、調査をしてきたのか外からは分からない。



質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題	「研究不正」の線引きが個人によって違う可能性がある。例えば「発表論文の再現性が取れない」という点が、捏造や不正とは言えないが、証明できないと、結局何が真実か分からない。
※	個人の問題	不正を起さしにくい構造に変えていくことは重要であるが、科学の最前線に立ちながら不正を起すのはその個人に資質が無いからとしか思えない。
※	個人の問題	基本的には個人の倫理の問題だと思う倫理観のある人であれば、自ら不正を行わないし、仮に不正を指示されても、それを行わないこともできるはず研究しか知らない個人が多いことが問題なのだと思います
※	個人の問題	構造的欠陥なら、不正は蔓延しているということになるが、実際はそのようなことはない。正しくないことは、どのようにしても正しくなることはないのだから、それを恥ずかしいと思わない、個人の問題。
※	個人の問題	結局、不正をするのは個人のモラルによる。
※	個人の問題	研究に対する姿勢が間違っていたのではないだろうか。研究者は自分のモデルやストーリーよりも真実を優先すべき。
※	個人の問題	私個人の見解だが、これまで問題となってきた例は、ほぼ個人の功名心と意図的な作為でなされたものと考えている。直接の犯人がポストドクであった例でも、その上司も明らかに共犯者である。
※	個人の問題	現状の科学体制においても、研究不正を行う研究者と、そうでない研究者がいるから。
※	個人の問題	構造の問題という意見は、インパクトファクターを重視するあまり、研究者を追い込んでいるというものであろう。しかし、そもそも研究者として、ねつ造をしないという倫理観に欠けるのは如何なものであろうか。この点を考えるとやはり個人の問題であると思う。
※	個人の問題	実績としての業績がある研究者、即ち業績を出す能力のある研究者に研究資金が配分される構造は妥当であり、不正をするかどうかは個人の倫理観によるところが大きい。
※	構造の問題	過度の業績主義。PI、上司からの業績に対する圧力と実験の現場に対する無知、無理解。実験の実情、プロセスを無視して、無理なデータを要求するPI、上司がいるにもかかわらず、ねつ造に対して、PI等への罰則が甘い。現場の問題としては、データ処理(はずれ値の扱い、統計処理、画像処理の許容範囲)のコンセンサスがでない。
※	構造の問題	あまりにも業績を重視する風潮。われわれの大学では個人評価で個人の年度ごとにインパクトファクターの総点数まで申請しなくてはならない。
※	構造の問題	大小を問わず不正を探すならば、その数は想像以上に多いと考えている。すなわち表に出ていないケースが多いというのが私見。これは見聞きする噂に基づくが、様々な調査報告(主に米国)の数字から見ても妥当と思われる(論文の数%には不正がある)。とすれば、これが起こらないように、減らすようにしていくためには科学界としての取り組みが必要。特定の精神的問題を抱える個人の起こした事案と考えるのは本質を見誤っていると思う。
※	構造の問題	研究費の制度が短期で成果を求めようになっていること、また、一部の声の大きい研究者に研究費が集中し過ぎているために、多数の研究者による自由な競争や議論の環境が損なわれていること、学問領域が細分化し、互いに議論しにくくなっていることがあげられる。
※	構造の問題	研究費、ポジションなどの競争が不正を助長していると考えております。
※	構造の問題	研究指導者を見ていても、論文投稿前にきちんと図をチェックしたり、コントロールをきちんととったりすることができないような、研究のための基礎的な素養が不足している人が多く見られる。そのような人は不備が見つければ訂正すれば済むという程度にしか思っていないように見える。そのような「甘い」実験しかできないような人が増えてきたことが、不正を生む根底にあると思う。
※	構造の問題	業績重視の教育構造
※	構造の問題	純粋に問題がある個人による場合もあると思います。しかしながら、研究の内容ではなく high-impact factor の雑誌にどれだけ論文を出しているかを評価基準にしていること(構造)が根本原因かと思えます。また、他の原因として、研究室においてPIが絶対的な権力を握っていることがあると思えます。その結果として、PIにとって都合が良いデータが作られる場合があります。
※	構造の問題	結局、行きすぎた成果至上主義が問題を引き起こしているから。誰も不正をしたくてして居るわけではないと思う。
※	構造の問題	論文数など目先の数字で評価されることが多く、真実を深く追求するよりも論文を多産する研究者がポジションを得るケースが多い様に見受けられる。その中には、どれだけ確かな知見を世の中に発信したかよりも、どれだけ多くの論文を発表したかにこだわる研究屋がいる。その様な雰囲気の中では、ねつ造や、そこまで行かなくても不確実な結果を平気で発表するなどの意識低下が起きていても不思議ではない。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	構造の問題	研究費の使用方法をもっと自由に、簡素にするほうがよい。
※	その他	研究者が成果を求められ過ぎ、また、成果（捏造でも）が無いと研究費が配分されないため、不正が起こると思われる。
※	その他	研究能力が無い人をPIにするため、無理が生じる。人事の際にコネ等を純粋な業績より重視するため。大学の現スタッフの多くは研究能力が低い。高い研究能力を持つということがどういふことかそもそも分かっていない→そういう人が人事投票権を持つ→自分と同じ系の人を採用＝日本のサインス界・学生にとって明らかに悪循環大学・学部が不祥事を起こしてもかばう＝不正の助長
※	その他	研究不正の原因は、個人の問題と、科学研究の体制の両方に問題があると思われる。本当に真理の追求をしたいと思っていれば、捏造をするはずがない（捏造したデータは真理ではない）。この意識の持ち方の問題は、特定の個人の問題である。一方、現在の科学研究の体制は、競争的資金やポジションの獲得に際して、論文の数やインパクトファクターで評価されることが多い。近年は特に、大学や研究所のポジション、競争的研究費ともに、競争率が激しくなる一方であるので、捏造してでも論文を出したいと思う人間がいても不思議ではない。この点は科学研究の体制の問題である。
※	その他	過大な人事競争が背景にあると思います。いかなる過酷な状況にあっても不正を行わない人物もいますが、不運にも業績が挙げられなかった結果、淘汰されていきます。無能だが不正により生き残った人物が人事権を握れば同じことがガン細胞のごとく増殖していくのは自明です。現在の日本の生命科学には上記の様な問題が根深く存在していると思います。
※	その他	学会は暇なんでしょうか。質問が俗物的過ぎて、欲求不満気味のようにも見えます。何か外部圧力でも受けているのでしょうか？些末な事に必死になり過ぎて狂気感すら感じます。
※	個人の問題/構造の問題/その他	留学先で別の留学生在がデータを「作出」し、それをもとに論文を書き、雑誌に載りました。不正があったとボスに言ったら「あいつは論文を書いた。おまえは書いていない。おまえは敗者だ。」と言われ、そのままになりました。留学生は母国に帰らないために必死、ボスは資金を取るために必死。崇高な志だけでは、研究者として生きていけない。
※	個人の問題/構造の問題/その他	論文を出さないと3年でクビになる状況で、捏造が生じるのは不思議ではない。一方で、その弱い立場の下っ端を精神的肉体的に追い込んで、うまく利用しておいて、いざマズい状況が発覚すると、「私はしらなかった、あいつが勝手にやった」と言い訳する悪い奴らがいることもポイントである。
※	個人の問題/構造の問題/その他	ほとんどの場合、構造的欠陥でしょう。若いうちから研究者を雇用しておきながら、業績が出なければ切る、業績が出て5年や10年で雇い止めするという方法で雇用調整を図っている以上、ポジションが無いと冗談ではなく路頭に迷ってしまいます。他業種でも研究職の人はそれほど離職しないですし、こんな不景気で企業の中途採用などは日本ではほぼ皆無ですから、研究者のキャリアプランの欠陥からポジションや研究費を得るための不正が起きているのは実感として明らかです。
※	個人の問題/構造の問題/その他	研究不正者の周りの人間も、結局自分に不利にならないようにしてるだけ。研究不正者は悪いけど、でもソイツが失脚しちゃうと自分にとって不利になる場合は、なんとか擁護しようとする。〇〇大が好例。自分の地位や予算への影響を考えて、どちらが得かしか頭に無い連中が多いと気付かされた。悪すぎるやつは、裁かれない仕組みが出来上がっている。
※	個人の問題/構造の問題/その他	成果を上げなければいけないという焦り（これはある程度仕様が無い）。不正を行ってもばれないだろうという思いがあるので、出来るだけ不正の告発をしやすく調査をし易い環境があれば良いと思う。
※	個人の問題/構造の問題	任期制（過剰なポスト）とインパクトファクターに極度に依存した実績重視主義（昇進、研究費獲得など）が、研究者の倫理観を狂わせている感がある。
※	個人の問題/構造の問題	ラボの中で高いジャーナルに出さないといけないような環境を作り出している事や研究者本人が周りのプレッシャーに負けていることが原因で不正をするのだと思います。
※	個人の問題/構造の問題	過剰な競争主義
※	個人の問題/構造の問題	データを出さないといけないプレッシャー
※	個人の問題/構造の問題	〇成果（業績）主義による上（上司・研究機関など）からの圧力〇データに対する責任の欠如（例えば学位所得のためだけに研究を行い、学位取得後は研究を離れてしまうケースなど）
※	個人の問題/構造の問題	個人の問題はあるが、期限付きポストの「リレー」を続けている立場から言わせてもらうと、「Nature, Cell, Scienceを出せばポストが得られる」あるいは「Nature, Cell, Scienceが無ければそもそもポストを得る入り口にすら立てない」という現在の風潮は非常に危険で、研究不正を助長している。実際に、誰々はNature, Cellでポストを得たけれども、データをねつ造しているという話を複数知っている。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題/構造の問題	早急な業績追求型の体制が不正を増やしているように思う。10年～20年後に芽が出るような研究を受け入れる体制に戻るべき。
※	個人の問題/構造の問題	不正をする側に当然否はあるが、どうしても他研究者に情報を隠して成果を上げていく・日本の同分野のレベルアップというより内に内に閉じ込めて自分のところこそがプライオリティーを取っていくというのが至高であるかのような研究者評価体制になってしまっているので、現在の科学者を取り巻く環境が不正を起こさせてしまうような環境であるとも言える。
※	個人の問題/構造の問題	研究は研究者が行っているもので、不正の問題は個人の性質に帰結する。ただし、研究者を育成する環境の諸々やすぐに社会的弱者に転落する危険のある研究者の社会的地位の低さの問題がある。日本人はよく持ちこたえていると思います。
※	個人の問題/構造の問題	雇用問題など色々な問題もありますが、どんな状況下でも捏造をするひとは、します。しかも、昨年の〇大の件を見ると、結局はトップ以外はそのままの職についているので、捏造に対して呵責のない人は、やったもん勝ちだと思っているのでしょう。
※	個人の問題/構造の問題	プレッシャーの解消の仕方。プレッシャーはだれにでもかかる。無限ループ。
※	個人の問題/構造の問題	教育と、成果主義のバランスがとれていないことが原因だと思います。
※	個人の問題/構造の問題	DORAを当学会でも広く広報して欲しい。
※	個人の問題/構造の問題	研究費のpeer reviewシステムの不備。大型研究費の採択に当たって、IFを必要とすることが弊害を招いている。また、卒業要件に査読付き論文が必要な大学の存在も問題である。名誉欲は個人の問題。
※	個人の問題/構造の問題	個人の問題が大きいとは思いますが、研究費獲得の為に少しでも良いジャーナルに論文を掲載する事が条件となっている事が多い現状も問題も、不正発生の一端だと思う。
※	個人の問題/構造の問題	研究のアイデアやデータを研究グループ内で共有するのは当たり前とおもいますが、その共有のレベルが低下していると思う。責任著者が不正を説明できない(本当に何が起こったのか分からない)のは構造の問題だと思う。様々なプレッシャーのなかで、どんなに優れた人格であっても、極限状態では不正をしないとは言えない、という考えにたつて環境を整えるのが良いと思う。
※	個人の問題/構造の問題	大学や研究機関への就職、研究費の当落などに、論文の内容(質)よりも、まず数の方が重要とされている点が、不正の温床となっているのは、間違いないと思う。
※	個人の問題/構造の問題	名誉欲の強い人間の個人的な性格の問題である場合が多いと思うが、任期制で短期間に成果を求められたり、学生が卒業するために成果が必要だったり、制度が成果を急かす傾向があることは否めない。私が不正を目撃したのはアメリカ留学中の研究室のフランス人研究者だが、最初に仮説ありきで、その仮説に合わない結果を無視していた。仮説ありきで研究を進めるのは非常に危険だと思う。
※	個人の問題/構造の問題	就職、任期更新、競争的研究費取得の判断が過度に論文業績を重視しているため、
※	個人の問題/構造の問題	研究者の大半が科学に対して真摯であると思うが、巨大な圧力がかけると、人間、不正を働いてしまう弱さも持ち合わせていると思う。
※	個人の問題/構造の問題	個人に起因する不正もあると思うが、不正をしたくなる社会構造が科学体制に限らず日本社会には存在すると思う。
※	個人の問題/構造の問題	業績重視で結果を求め過ぎる体制が不正の一つの原因になっていると思います。
※	個人の問題/構造の問題	自身の研究者としての生活(雇用問題など)を維持するためには業績が第一である、という構造的な問題が根底にあるが、悩んだ挙句研究不正に手を染めてしまう個人的弱さが引き起こしていると思われる。研究者を雇用するうえで、所属機関のトップクラスの人事担当者による面接(研究者面を評価するものではなく、人間性を評価するもの)がないことも問題の一つではないか。
※	個人の問題/構造の問題	投稿段階で不正を見破っても、怪しい箇所を変えて再投稿が可能なので、そういう意味では構造的な問題。そのようなことをする人がいるということは、個人の問題。
※	個人の問題/構造の問題	研究室単位で不正が行われていないならば、個人の問題だと思いますが、その個人がどうして不正をするに至ったか、その経緯を知る事が重要だと思います。一般的な解釈として、不正をしてまでも結果を出さなければならない状況に追い込まれているからこそ、そういう行為に走ってしまうのではないのでしょうか。その原因はもしかしたら、現在のアカデミアの構造に問題があるのかもしれない。
※	個人の問題/構造の問題	(個人の問題)PIが、論文のストーリーを作って、その通りの結果が出るはずという思い込みをポストドクや学生に強いる例をよく耳にする。
※	個人の問題/構造の問題	両方の問題である。個人への研究に対する倫理教育も不十分である。また、論文のみで評価される研究環境では少なからず不正を生む可能性を排除できない。
※	個人の問題/構造の問題	最終的には、行った個人の問題であると思うが、そのような状況を看過した組織の責任はある。また、そのような行為に及ぶにいたった構造/システム(研究費取得のための論文掲載)にも問題はある。
※	個人の問題/構造の問題	程度の差こそあれ、実験結果の再現性や方法の妥当性について、認識は異なる研究室間で差があると思う。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者 番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題/構造の問題	捏造問題の根底には、アカポス問題、ポスドク問題があるのは、自明の理です。
※	個人の問題/その他	例えば、学位審査において本人による発表と討論よりも、他人（教授など）が書いた原著論文の有る無しの評価に決定的に働くこと。これでは能力のない人間の教育・淘汰が正常に機能せず、そのようにして主体的に研究を遂行することができない人間を野に放てば、保身のために不正に手を染めることは容易に想像がつく。



質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか? <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	両方の問題。
※	両方
※	両方
※	両方
※	Funding agencies, specially from the government.
※	監督官庁の問題
※	両方
※	精神的に未熟な研究者が過度の競争にされられると、不正に走る可能性がある。その一方で、そのような競争がないと、基礎研究において、諸外国に勝る成果を出すことはできないかもしれない。
※	そもそも人間のモラルの低下も。当事者も周りも。
※	両方
※	両者の問題が絡み合っている。
※	両方
※	科学体制の構造的欠陥というのが何を指すのかわかりませんが、少なくとも様々な局面で主体的な評価システムが機能しておらず、評価の丸投げが横行していることは良くないと思います。
※	1と2のいずれもも原因であると思う。
※	両方
※	1, 2の両方だと思います。
※	個人の資質によるところは大きいだろうけれど、そういう人間がいるのは当然なのだからそれを防げないのは構造の問題だと思う。
※	基本的には個人の倫理観の問題だと思うが、ねつ造をチェックし処罰する機関がないことで野放しになっているのではないか。
※	物事の本質が見えない現学会と社会と風潮。
※	両方の要因があるし、混在する。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由と具体的な対策案
※	教育	「死刑」があっても、凶悪犯罪が減らないように(むしろ年々増えている)、厳罰化を進めても抑止力になるとは思えない。
※	教育	そもそもサイエンスをやる理由が、好奇心の追及のほうで、出世や研究費獲得ではないはず。過当競争気味のこの業界では、競争ゆえに当初の目的を失う傾向があるそういった意味で、競争に勝つための教育ではなく、好奇心を追及するといった本来の目的を再認識させるための教育が必要と思う。ただ単に不正はいけませんよ、という教育で何かが変わるなら苦労しない
※	教育	厳罰化は意味がない。自由な雰囲気の中で成果や研究費ではなく、純粋に研究のことだけを考えて実験に打ち込めるような環境を整備するように、PIを教育するしかない。
※	教育	たとえばウェスタンブロットングの結果で、バンドを追加したり削除するのは不正に当たるとする人は多いと思いますが、目的バンド周辺だけを切り出して提示するのはどうなんだろう？ 具体的に不正と不正ではないことの線引きに共通意識(国内研究者だけでなく、論文審査に関わる外国研究者、出版社も含めて)が得られてないのではと感じます。まず、この部分をも明確にすることが大事かと。その上で、遺伝子組換え講習会のように毎年講習会を開いて不正の具体例を挙げて喚起することが良いかと思います。
※	教育	どちらかといえば教育です。厳罰化しても“ばれなければ、、、”となるので、きちんと教育で指導すべきだと思います。ただ、根本的にはその人の道徳感が重要になるのかもしれませんが。
※	教育	それぞれの研究室でなんとなく伝統的に伝えられてきたアカデミックな研究者としての心構えのようなものが、今後、減っていくのは明らかなので、それに代わる教育のようなものが必要となってくると思う。
※	教育	Q13にも関連するが、実験する際には正しいコントロールをとったり、統計処理をしたり、学会発表や論文発表する際の図、写真の準備の仕方など、根本的な教育をきちんとすべきであるし、そのような教育を受けた人がこれから研究を指導する人に増えなければならぬ。改善には20年、30年かかると思う。
※	教育	常日頃から、実験データをラボ内みんなでも良く吟味・議論しておく事が大事だし、実験の再現性なども必ずPIの責任で確認する様に義務化してはどうか。
※	教育	厳罰化はあまり好ましくないと思う。昨今の不正事案の当事者は、職を追われる／辞する、研究費の申請資格を失うなど、実質的には研究活動が継続できなくなる大きな罰を受けている。にもかかわらず、不正行為が起こっている現状を考えると、科学者自身の意識改革によって、不正をなくす／食い止める地道な努力が必要だと思う。科学に携わる者のひとりとして性善説を信じたい。
※	教育	普段の研究室内のセミナー等において、生データやノートを提示してもらう。
※	教育	上でも述べてきたが、研究は研究者の倫理観のうえに成り立っている面が大きい。従って、倫理観を身に付けさせる教育が必要であり、逆に厳罰化することで縛っても、ルールの穴を見つけて不正に手を染める研究者が出てくることは必至であるし、そうなってしまうのが最も悪い気がする。
※	教育	研究倫理に関しては、未だに教育が行き届いていないのではないかとと思われる。例えば所属機関で発生すれば重く受け止めるだろうが、ふだんは自分に関係ないと思いがちだと思う。それは、若い人に限らず、年齢の高い人でもありうらと思う。大学や学部によっても教育レベルは異なると思われる。私としては、RI講習と同じように、学生、スタッフ全員の一斉教育を全国の大学で行うことが必要であると思われる
※	教育	なぜ、研究不正が起こるのかと研究不正をした状況の把握が必要。
※	厳罰化	PIや中間管理職に対する厳罰化。無理なデータの要求かどうか監視するための副指導教官が必要では？
※	厳罰化	もちろん必要ではあるが、教育・啓蒙では限界があり根絶は無理だと思う。それよりも長い目で若手を育てる風潮が必要では。
※	厳罰化	不正が客観的に証明されたら、研究職には戻るべきではない。できごころはあり得ない。
※	厳罰化	医師が不正をした場合、医師免許を剥奪するくらいの厳罰化をすれば良い。研究不正がばれたら臨床に戻れば良いと言う、甘い考えを持つ医師が少なからずいる。
※	厳罰化	研究不正がいけないのは、倫理の問題で、教育をせよとも誰しも分かると思う。分かっている上で研究不正をする場合が大半だと思うので、研究人生を断つくらいの厳罰化しかないと思う。
※	厳罰化	ねつ造する様な悪質な研究者は、研究を続けていく価値が無いばかりか、多くの研究者に迷惑を掛けることになる。科学者にとってねつ造などは致命的な行為であり、基本的にはラボを畳むくらいの厳罰化が必要である。若手の研究者がポジション不足で苦渋をなめている中で、その様な悪質な研究者が居座る事は、この国の科学にとってマイナスでしかない。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由と具体的な対策案
※	厳罰化	広く論文の結果を評価するコミュニティがあれば抑止力になる。論文の追試はどのラボでもよくやることで、追試結果をアップシオープンに検証の場とかがあれば、TOPジャーナルでの不正は減るかもしれない。
※	その他	教授・准教授・助教などの、研究者の階層・待遇を、少なくとも研究に関しては、平等にすること。教授に特権が有る。→教授になりたがる。→成果を強引に作る。という流れをなくす必要が有る。
※	その他	「先ず隗より始めよ」。現在噴出している捏造疑惑、特に所謂ビッグラボの問題を完全に解決すべきではないか？捏造疑惑にまみれた人物が学界の中心に座している現状、何を叫んでも説得力が無い。
※	その他	研究における責任者の考え方を考える必要があると思う。高いジャーナルに出すことだけが研究ではないので、その他の研究もしっかり評価する事が重要。
※	その他	任期制廃止。あるいは求人における年齢制限を禁止する。法的な上辺だけの禁止ではなく実質的な絶対禁止にすべき。
※	その他	研究機関や学会が不正の報告を受けた場合に対応する義務を負うようにすること。
※	その他	研究者になるような人は、よく教育されているので何が不正かはよくわかっている。厳罰化しなくても、現状でも不正したら二度と研究をやっていけないことぐらい誰にでもわかる。医師などと比べて、研究者としての社会的地位が低すぎるために、はっきりいって最も順調にポジションを得た人たちだけが普通の生活を許されて、どこかでつまづいたらアルバイト程度の待遇しか得られないという恐怖心から不正に走っているのだと思います。
※	その他	競争的資金やポジションの審査などに関して、理想的には、論文の数やインパクトファクターだけでの評価をせず、研究内容を適切に評価することが重要。ただ、論文による評価が客観的であり現実的でもあるので、実際にどのようなやり方がよいか、今のところは回答できない。また、少数の研究者に多額の研究費を分配する体制に偏るのではなく、多くの研究者に基盤的な研究補助金を交付する割合を増やすという体制の方がよいかもかもしれない。
※	その他	元々不正をしようとする人間などいないと思っており、そういった状況になってしまうのは研究者を取り巻く環境が大きいのと思う。博士号取得後も職のない者が多数存在し、その中で落ちそうな吊り橋のようなポストに立たされている研究者は、大きな研究成果に時間をかけて辿り着こうとしているのにも関わらず実績を形として出さなければ職を失い、悲惨だと眺めてきた枠組みの中に入ってしまう恐怖感にも苛まれてしまう。特にこういった状況は、任期恒久化の施しをまだ受けていない若手の研究者に頻発すると思うので、その辺りの抜本的な構造改革が必要であると感じる。
※	その他	勢いのある研究者が熾烈な競争環境で頑張るという現状のシステムとは別に、もう少しじっくり研究をしていい環境を用意すべきかと考えます。競争的資金の争奪による、過当競争を抑制する意味で、例えば、小額の非競争的研究費の分配(例えば、競争的資金を持たないものに対して、科研費申請書の点数と発表論文のIF値に準じて配分するような形)というような局面にきているのではないかと思います。その結果、獲得資金に関わる、つまり、申請書の業績・成果リストにある論文の不正を追求する。結果として、論文-資金の対応が明確化すると、それに準拠して賠償金と罰金の金額が確定するのではないかと思います。
※	その他	オリジナルデータからデータ処理までの透明化
※	その他	研究内容や研究成果の正当な評価が必要。脚光を浴びるような研究成果を挙げた場合のみ、研究資金やポジションが獲得できるような現在の、ひずんだアカデミアの体制が問題。
※	その他	残念ながら個人の倫理観に訴える以外の対策を思いつかない
※	その他	特に大学では研究だけをやっているのではなく教育ということも大変重要な役割である。ただ、今の大学では教員の評価が論文数であったり研究成果、研究資金の獲得などと研究が重きを置かれている。しかし、教育に対するしっかりとした有効な評価がなされていないように思える。もしくは評価はされていても反映されていないか。それは最高教育機関としてどうなのだろうか、と思う。特に私などは研究ももちろんだが各方面の教育に力を入れたい教員である。そういう教員の評価が反映されていない。
※	その他	「あいつのNature再現しないんだよ」というレベルの議論を、いかなる権威・権力にも気兼ねすることなくオープンな場で論じ、仮に捏造の指摘が不適切であった場合にも告発者が罰せられない、ということが可能であれば、捏造が疑われる業績がポストの獲得に有利に働かなくなり、中長期的に捏造の根絶に向かうと思います。
※	その他	質問がしつこくて腹が立ってきました。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由と具体的な対策案
※	教育/厳罰化/その他	教育が一番重要。人としての尊厳を。たとえばブラックリストを作って公表する。人事や予算の選考時に参照してもらう。学会お墨付きのブラックリストとして意味のある物にするためには、学会として責任ある対応が必要。これまでのような逃げ腰の姿勢じゃいられなくなる。
※	教育/厳罰化/その他	科学研究費執行停止。疑念がある際に、白黒をはっきりさせるよう、政府機関から所属大学への圧力。告発を受け付ける機関。
※	教育/厳罰化/その他	Q13にも書いたように、論文の質よりも数が、まず重要視されている現在の研究者への評価方法を変えることが必要であると思う。そのためにも、新たな評価方法の確立や、審査方法の改善等をすべきであると思う。
※	教育/厳罰化	第三者の監督機関が必要
※	教育/厳罰化	本来なら(倫理など)教育のみがいいが、教育効果が出るまでは、多少厳罰化して「やり得」を無くす必要があると思う。
※	教育/厳罰化	どこからを不正とするかによって変わってきますが、意図的でないもの、
※	教育/厳罰化	短期的に厳罰。長期的には教育。研究室の規模が拡大し、その結果、論文の著者と実験を行なう者の距離が大きくなってしまふところに、(少なくとも部分的には)不正の原因があると思います。実験や論文執筆にはほとんど関与しないが、責任著者となるPIが少なくないですが、研究資金が本当に潤沢であった時には通用したかもしれないこのようにな一昔前のスタイルは出来るだけ無くして、必ずしも大型でない予算で、研究規模に見合った人員は確保しつつも、可能な限り、小さな研究グループを組織し研究の質を維持する努力をする事が、長期的に効果があると思います。そのような環境に若手が参加できれば、自ずと教育の質が上がると思います。
※	教育/厳罰化	厳罰化について、明らかな不正があった場合は、直接関与した者は、二度と研究を行えなくすべきだと思います(不正をすることは科学/研究を否定する行為だと思います)。PIについては、直接関与した場合でなくても、見抜くことが可能であったのに見抜けなかった場合も同様です。何らかの法律によって、犯罪として扱っても良いと思います。教育については、大学院において、研究不正に関する教育を必修にすべきだと思います。しかしながら、研究室において、先輩・上司の研究者の姿・考え方を、研究に対する姿勢・考え方を学んでいくものですので、教育方法も含めて教育するのがいいのかもしれない。
※	教育/厳罰化	どういうことが、研究不正に該当するのか、具体的例をあげて、教育を受ける機会を与えてほしい。
※	教育/厳罰化	社会構造に主因があると考えるので根本的な改善策はないと思うが、現代社会においては学生には「見て学べ」ではなく「一から教える」方がよいと思うし、教授クラスには社会的制裁が大きい方が効果があるだろう。
※	教育/厳罰化	厳罰に対処されなければ、教育だけでは効果が得られない
※	教育/その他	教育は精神論なので、息長く続けるしかない。定義は、そのものです。結果の解釈間違いは不正か？プロットイングのバンドの濃さが前回の80%なら、再現性なしなのか？「あの人にしかできない」は、再現性なしなのか有りなのか？定義がないと、第三者機関が調査や再現実験ができないので、泥沼化する。
※	教育/その他	どこまでが研究不正なのか、曖昧なところは、何らかの制度化が必要
※	教育/その他	何が不正であるかを学ぶ機会を大学で必修にすることと、不正に手を染めるまで行かなくても何とかする(?)という環境を作ることが重要だと思う。厳罰化は効果は無さそうだけれども、不正が見つかり易い環境であることは歯止めにはなると思う。
※	教育/その他	研究者が楽しんでサイエンスをできる土壌が必要だと思います。研究者間、一般とのコミュニケーションを通じて科学研究者の意識を変える事が根源的な解決策だと感じています。
※	厳罰化/その他	厳罰化:ダメな研究者にはどんどん退場してもらうべきである。その他:専門の調査機関の設置。
※	厳罰化/その他	上に述べたとおり



質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者番号	その他記述
※	公平、公正な研究費の配分と教授・准教授・助教の階層の平等化。
※	現在、問題となっている事案の完全解決。
※	大学（一般教育）と大学院（研究）の完全分離不正調査のための第三者機関の設置。
※	不正の明確な定義。
※	研究室の環境づくりが重要、特に責任者の考え方を変える必要があると思う。高いジャーナルに出すことだけが研究ではないので。
※	予算分配を小額ずつ万遍なく、という方針にする。特に基礎研究。成果を焦らず長年コツコツ取り組むというスタイルが大事な分野がある。基礎研究は役に立つという評価軸が当てはまらないが、一方で IF による評価もまた不適当。
※	不正を早くに発見して対処できるシステムを作ること。
※	More resources to have the best possible reviewers. Currently Japanese evaluators favor their friends or other scientist with massive numbers of papers. That is poor evaluation.
※	成果主義の見直し
※	研究者の雇用対策等、研究者を取り巻く環境改善
※	研究者のキャリアプランの確立。
※	研究者評価・登用制度の抜本的見直し
※	研究環境の充実
※	不正をしてもすぐに明らかになるような（その為の努力等が必要ないような）システム
※	すべての情報を事細かにログに残して、事実関係を永久にいつでもトレース出来る状態にする。実際はPCがあるので、もうなっている。
※	信頼できる告発・調査システムの開発。常勤のポジションを作る。国が動かないなら、分子生物学会が作っちゃえば良い。金ならある。
※	インパクトファクター以外でも研究成果を評価できるような仕組みを作る。
※	情報交換。オープンな姿勢。
※	監視機関を機能させること。定期的なスクリーニングなど。
※	評価を成果だけでなく、成果がでてなくても研究内容の将来性など、多岐にわたった項目で評価するようになれば、不正は減ると考える
※	不正告発の簡便さが必要。匿名化は必須。
※	研究者への評価方法の確立
※	制度化
※	外部調査、裁定機関の設置
※	研究成果の評価基準の多様化、研究者のポジションや進路の多様化によって「評価される結果を出さなければならない」という意識（プレッシャー）を軽減させる
※	不正による研究費取得には、詐欺罪のような刑事罰を適用すべき。
※	なぜ不正が行われているのか、その理由を徹底的に調査して、そうならないシステム作りと教育（周知徹底）が必要だと思います。
※	不正が起きないようなデータ・プロトコール管理方法の提案と実施すでに行われているところもあるが、ジャーナル側で論文投稿時に生データの添付を要求
※	研究者の評価の仕方を変えるべき
※	研究の再現性を公の場で議論する言論の自由の保証
※	ジャーナル等による生データのチェック
※	研究する時間、人員の余裕をもたせる
※	成果第一主義が問題であると思う。
※	現状で十分だって。
※	捏造Gメンの設置

質問15. 研究不正や研究倫理への対応に関してのご要望やご意見

回答者番号	ご要望やご意見
※	現在噴出している捏造疑惑、特に所謂ビッグラボの問題を完全に解決すべきではないか？捏造疑惑にまみれた人物が学界の中心に座している現状、何を叫んでも説得力が無い。
※	少なくとも学会ができることとして、年会発表などできちんとデータの議論を行うことが予防策の一つになりうると思う。日本人の悪い点でもあるが、批判的な議論をさける傾向があり、また、そのような議論を行うのに十分な時間が設定されていない。
※	下に「日本分子生物学会は不正や研究倫理問題に関して、研究倫理委員会などを設け、積極的に取り組み、関連機関などへ要望書を送付して来ました」とあるが、〇大の〇〇問題は？学会のオフィシャルの啓蒙活動をしていた人が、不正に手を染めていた（状況的には真っ黒）とかありえない。にもかかわらず、「日本分子生物学会は・・・」というのもあり得ない。少なくとも〇〇問題を解決して（例えば、弁護士に学会が調査を依頼することも可能でしょう）、その上で、学会のできることを一からはじめるべき。〇〇氏以外でも、研究不正の当事者とされた方が、不正問題の決着が着く前からその年の年会シンポジウム(WS?)の座長をしていたことも過去にはあった。学会は自分のことは無視して出来もしないことばかり言っているという印象が強い。
※	教育にしても、美しい心を育てるだけでなく、どういう不正がどういう社会影響を「与えたか」について、知識を植え付けないと、若い世代には起こっていない絵空事にしか聞こえない。研究不正のヒヤリハット集ですね。
※	明らかな不正(写真を上下反転させて別の論文で使う、やってもない実験のデータを載せてしまう、科研費を私的流用してしまう)は、分かりやすく良いが、グレーゾーンが分からない。「再現性が取れない」は不正なのか？など、グレーゾーンの明確化を議論してほしい。論文執筆時に「materials and methods」のコピー&ペーストは、本当に不正と言えるだろうか？
※	近隣研究室で最近大きな不正が発覚したが、これはたまたま画像操作が稚拙なため発覚したケース。もし巧妙に不正を企てるものがあつたとしたらそれを見つけることは出来るのか大変懸念を持つ。今回のケースでも、バイオ研究に対する一般社会からの信頼は大きく傷つくものと思われる。嘘の仕事に費やされた研究資金の量は膨大。不正事案はこれだけでなく、全国に頻発している。由々しき状況。不正に対するモチベーションがわからないような構造が必要。同時に不正は必ず発覚し厳罰を受けるということが徹底されなければならない(やり得はないということ)。そうでないと不正がもっと跋扈し、正確な研究、次につながる研究は駆逐されるのでないか。
※	第三者の立場の機関が必要です。ハラスメント問題も絡んでいるかもしれません。そういった問題を総合で扱う機関が必要だと思います。
※	倫理観の問題というよりも、競争的研究経費ばかりになって、多額の研究経費を稼ぐか、研究を諦めるかの二者択一になってしまっているところに問題があると思う。研究を含め、文化は、層が厚くならなければ、本当の成熟はしない。一部の勝ち組と多数の負け組という構図を作っている現状では、対等な立場で自由闊達な議論をできる雰囲気はない。効率は少々悪くなくても、成果の有無に関わらずある程度研究費を平等に配り、みんなで等しく貧しい中で頑張る時代に戻るしか、まともな研究環境を取り戻すことはできないと思う。
※	Overhaul the funding (reward) system that favors small groups of friends.
※	昨今明るみになった研究不正の事例は氷山の一角だと感じます。地方の小さな研究機関でも、研究不正(データ改ざん・研究費不正受給など)は日常的に起きていると感じることが多々あります。第三者機関を通じて、より頻繁に厳しく査察をするべきではないでしょうか。研究機関での研究不正抑制のための啓蒙活動では効果がないと感じます。
※	学会の運営においても”内輪の取り決め”が横行していると感じます。～委員会を設け、というのは結構ですが、省庁からの要請、大学からの要請、雰囲気を感じ取った理事の偉い先生からのトップダウンではあまり意味がないのではないのでしょうか？はっきりいって”不正対策やってます”とアピールしているだけではないのでしょうか？想定で話す企画には誰も興味はわかないと思います、だいたいどんな話が予測できますから。不正でとばっちりを受けた人が実名で問題点を知らせる、あるいは、不正した本人が学会に弁明する必要があると思います。少なくとも、現在の分子生物学会会員で不正で取り下げた論文に名前がある方は学会から除名するか弁明するかどちらかを選んでもらう必要があるとおもいます。また、他の関連学会に対してこの人を不正問題で除名したと通告する社会的義務があるのでは無いでしょうか(そこがそれをどう判断するかは別にして)？少なくとも、学会として不正を許さない姿勢を実行で示す必要を感じます。そういうことをやっているのかどうかすら我々には伝わってきません。
※	不正が判明してから、処罰が下るまでの期間が長過ぎる。国民の血税を行なって研究をし、不正をした場合には刑事罰に処すべきだと思う。
※	研究不正は詐欺と同じで犯罪だと思います。結果的に多くの人を不幸にしてしまうので思いとどまってほしいです。ただ、研究不正をしてしまうかどうかは、幼少期からの教育や経験によるところが大きいと思いますので、大人になって教育したからといって効果があるかは疑問です。人は誰でも嘘をつきます。幼少期から嘘つきな子は大人になっても平気で嘘をつきます。研究不正もかかるといふ認識なら無くならないかもしれません。ただ、研究不正を行ってしまわざるをえなくなる背景は検証する必要があると思います。
※	上記、自由に記述してみた結果、最も近い機関として、NHKが思い浮かびました。かの機関の潤沢な資金を持って、知の集積・広報を行うとともに、不正の認知を行う部署を設けるのが科学技術立国に資する最も効果的な取組みかと思えます。勿論、不正の具体的な検証を行う機関はまた別に小さく作らねばならないかと思えますが、、論文にしろ、報道内容にしろ、社会的発信をした内容の事実関係に意識的・無意識的のどちらにしろ、虚偽があることについて、検証する公的機関が必要ではあると思います。問題は、それを本業とせず、あくまで、事案についての総説・解説の作成を本業とすべきであり、と同時に不正が合理的に疑われると事案も集積する。それをまた別の第三者機関が検証するという形が望ましいと考えます。調査機関には、おそらくあまり調査能力が無く、結局、現場のピア的活動になるのかもしれませんが。そこに未来はあるのでしょうか？

質問15. 研究不正や研究倫理への対応に関してのご要望やご意見

回答者番号	ご要望やご意見
※	正直なところ、研究不正の実例を知っていると言われると、あまりよく知らないという研究者は多いのではないかと思う。判例集のようなものがあるなら学会で紹介するのはどうだろうか。
※	啓蒙活動だけでは不正はなくなるのではないかと思う。なぜなら、みんな不正は良くないとわかっているから。その中から、不正が生まれてくるのは、おそらく追い込まれての苦肉の策なのだろう。みんなが再現できないという結果に対しては、再現性を公式に調べるようなことがあれば、捏造の発覚とともに抑止力になるとも思われる。
※	要職にもついていたのですから昨年の〇大の教授の件は、年会で説明させるべきだと思います。またその論文に関わった他の大学の方にも、説明責任があると思います。
※	なんで今ごろ？っていう感が強い。まあ「今でしょ」ってこと？もちろん何もやらないよりはやった方が良いけど。それぐらいあきらめの気持ちが強い。問題がずっと放置されてきたと言うことは、分子生物学会としては現状を認めていると言う理解が良いのか？「対策してまっせ」ってポーズはするものの、実効性は無い。問題ととらえてなんとかしようとしてるんですが・・・というアリバイ作りで終わっている。本気でやるなら、〇〇さんは適任だが、学会でベストの人材であるので学会にとっては最後のチャンス。これでダメだったら、学会員は分子生物学会を信用しなくなる。または逆に、悪いことでも放置してくれる学会としての信頼は得られるかも。
※	研究不正が起きた際に、どう対応するかや、不正を防ぐために、教育を充実したり、罰則を強化するといった対応は、百歩譲って間違っていないと思うが、所謂、学会のお偉い先生方には、もっと根元的に、なぜ、不正をするのか？というところから、きちんと考えて取り組んでほしい。
※	研究とはなにか、サイエンスとは何かをもう一度各自で自問すべきだと思う。
※	学会のIT化や英語化も良いが、そのような見た目にこだわる前に、不正研究者の厳罰化の推進に力を注ぐべき。
※	Q11へのコメントとかぶるが、自然・人文・社会科学の全ての大学院で倫理のプログラムを導入するべきではないか。
※	分子生物学会として開催した研究倫理に関するランチョンセミナーで、捏造が問題となった先生の動画がまだ掲載されています。削除をお願いした方がよいのではないのでしょうか。https://www.yodosha.co.jp/jikkenigaku/mbals2009/dl.html
※	基本的には、誰も研究不正をやりたくてやっているわけではないと思う。サイエンスも競争社会なので難しいかも知れないが、データ至上主義に偏り過ぎるのは考え物であると思う。
※	過去の不正による業績により現在の地位にいることに納得できない。
※	特に無し。
※	日本に限らず他国でも、研究不正が発生することがあり、ある程度の頻度で不正が行われるのは防げないのかもしれない。しかしながら、日本では、研究機関自体がうやむやにしてしまう、軽い処分ですましてしまう、といったことが行われている印象があります。
※	先日、あるフランスの研究室からの論文のWestern blottingの図が、数年間にわたって継ぎ接ぎだらけで、明らかにPhotoshopで加工していたので、論文を掲載したJournalに問題提起したが、なんの反応もなかった。論文を掲載するJournalは、不正のある論文を掲載しないように、チェック機構を設けるべきだと思う。そして、そのような論文を投稿した研究者に厳重注意し、Journal間で情報を共有して、不正を防ぐべきだと思う。
※	不正の摘発や再発防止も重要だが、不正が行われた動機や事情についても知りたい。弁明や言い訳という事ではなく、何が道を誤らせた決定条件かが知りたい。おそらく自分にも似たようなことがあるだろうから。さらにはそのような事情の元で、どうしたら不正に陥らずにすむか、というケースワークが必要だろうと思う
※	実際に不正に手を染めた人のみでなく、教授からの圧力があつたか、とかプレッシャーがきつかったか、などラボのトップの関与や圧力を徹底的に調べて欲しい。
※	研究不正について責任著者が全責任を負うべきです。研究業績の果実は取るが、不正があつた場合は責任を取らないということが横行しています。責任を負えないならば責任著者になるべきでない、という倫理を確立するべきです。
※	結局、論文が研究費の取得に直結しているので、このような不正行為が起こる。多くの研究者は、真摯に研究活動を行っているのに、そのような研究者がきちんと評価されるようにならないと、日本における将来のサイエンスはない。
※	特に有名紙に発表した論文における不正疑惑は日本の科学の評価を下げることになり許せない。また、その結果おおきな予算を獲得したりポストを得たりすることも不公平だと感じる。不正を監視する機関を作るのがベストだと思う。
※	学会が積極的に関わり過ぎて過干渉気味。不快。何をそんなにヒステリックになっているのか意味不明。これは金になるのでしょうか。きっとどこかの団体が儲けるようなシステムになっているのでしょうか。
※	はっきり言って、大学も役人も学会も甘すぎます。生々しい現実には、2ちゃんの生物板・理系板に詳しく書かれていますから。



質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由やご意見
※	十分だった	学会として出来る範囲で、十分に啓蒙活動を行ってきたと思う。
※	十分だった	はあ？第一部に続いてまだやるの？バカ？
※	おおむね十分だった	不正の悪い側面に光を当ててほしい。
※	おおむね十分だった	学会でできることはこの程度では？
※	おおむね十分だった	後は手の施しようが無い
※	おおむね十分だった	年会でのお話しは大変大事な話だと思って聞いています。
※	おおむね十分だった	若手への教育は十分であったと思うが、教育を行なう側が不正を行った件に対する対応はお粗末であったように思う。
※	おおむね十分だった	現在、進行中の〇大の不正問題など、学会から申し入れをおこなっているにも関わらず、〇大から返答がないなど、遅々としてその説明が進んでいない印象がある。しかし、これは、〇大の問題であるし、そもそも、何の拘束力もない学会からの申し入れであるので、結果として十分だとは思えないが、学会に出来るのはこの程度だろう、というあきらめの気持ち。
※	おおむね十分だった	相対的には積極的に取り組んでいる学会であると思う。
※	おおむね十分だった	私が参加している学会の中で、同テーマをシンポジウム等でとりあげたのは分子生物学会だけだった。
※	おおむね十分だった	研究不正に体する啓蒙活動等、学会としてできることはやっていたと思われるので。
※	おおむね十分だった	学会の権限として、出来る範囲のことは充分に行っていると感じる。
※	おおむね十分だった	他学会と比較すると正面から取り組んでいると思う。
※	おおむね十分だった	他の学会よりも、意識は高い様に見受けられる。
※	あまり十分でなかった	研究倫理のセッションなどに出ていた本人が不正で辞職したりしているようでは、説得力がない。
※	あまり十分でなかった	対応後も問題が起き続けている以上、十分とは言えない。個々の問題に対応したり、個々人の倫理観について議論するよりも、不正の背景となっている構造的な問題に切り込むべき。
※	あまり十分でなかった	実際に多くの不正の疑惑がもたれているが、学会として、政府、研究費分配機関、大学、社会に発信・働きかけをほとんどしていないのではないかな？
※	あまり十分でなかった	研究倫理ももちろんだが、正しい実験計画、コントロールの取り方、統計処理の仕方について啓蒙したり、大学、研究所レベルまで波及するような仕組みが良いと思う。また、学会誌での統計処理の仕方、要求されたときは生データを別途送らせるといった、図の準備の仕方の指針を、模範例として提示すべきだと思う。
※	あまり十分でなかった	分子生物学会の指導的立場にありながら、不正に関わった会員がいましたが、分子生物学会としては、なぜそのような人物を指導的立場に据えてしまったのかを検証すべき。その選考の過程を明らかにして、問題があったか、無かったか議論してほしい。そのデータ、どの論文が不正なものかを検証する必要は無いと思います。
※	十分でなかった	自分の身を正すのがまず第一。Q15参照。
※	十分でなかった	要望書を提出しても何も解決しない。疑いのある研究者や監督責任者に対する聞き取り調査ぐらいはやるべき。
※	十分でなかった	学会の研究不正のシンポジストの偉い先生が、研究不正で辞職するなど笑えないジョーク。そもそも、そういう企画を立てるときにどういう経緯で人選されたのか疑問。実際には、学会関係者の内輪でできた場当たりの人選だったのではなかったのでしょうか？いかにもキャッチーな人選でした。学会として、場当たりの対応に終止するのではなく、地味でも良いから研究不正の問題に真面目に取り組める専従の専門家も必要でしょう。
※	十分でなかった	おもしろおかしく騒いでるだけの印象です。やるならきちんと権限を持ってからにした方がよいのではないのでしょうか。
※	十分でなかった	もとトップが説明をしてないので、全く意味をなしていないと思います。
※	十分でなかった	全く十分じゃないよ。聞くまでもない。どこらへんが十分だと思ってるの？アリバイ作りとしては十分と言う意味？ほんとのところ、分子生物学会としては研究不正は良くないことだという認識を持っているのかはつきりして欲しい。学会の金がすごく余ってるんだから、研究不正対策の常勤の部署を作たらどうか。
※	十分でなかった	学会として取り組むのであれば、専任のスタッフを用意すべき。これまでの例からも、研究の片手間にできる物ではないと思われる。もし、予算がないのであれば、学振等に機関設置を呼びかける必要があるのではないかな。
※	十分でなかった	〇〇〇氏の事件について、分子生物学会として何らの対応（謝罪）を行っていないのは問題。
※	十分でなかった	なまぬるい。
※	十分でなかった	どこもぜんぜん甘い！委員自体に捏造王がいたぐらいですから。
※	わからない	学会における不正問題への対応の中心人物自身が疑惑の渦中にある状況では、充分・不十分以前の問題ではないだろうか。
※	わからない	認知していない。

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由やご意見
※	わからない	対応していたかどうかも分からなかった。
※	わからない	人によりけり。
※	わからない	すみません。日本分子生物学会の対応を十分に把握しておりません。
※	わからない	〇〇〇氏が若手研究者教育ワーキンググループの長であったのは皮肉と言うほかなく、分子生物学会がいかなる努力をすればこのような問題に正しく対応できるのかわかりません。
※	わからない	基本的にやれることはやっているのだと思いますが、それで不正を防げるのかはわかりません。

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由やご意見
※	やるべきである	悪いことは、隠していても改善されません。日本柔道や小中学校のいじめの問題と同じです。
※	やるべきである	研究発表をなくしてでもやるべきである。学術集会は研究発表の場であるが、学会は学術運営の場である。学術集会や研究発表は、本来はおまけである。学会の方針で研究社会や一般社会を引っ張っていかなくて、どうする？分子生物学会が社会に何か言ったのは、仕分けの時ぐらいしか記憶に残っていない。
※	やるべきである	学会は学生の勉強の場でもなる。国際学会ではなく、国内学会であるのだから、「市民公開講座」があるように、若手向けの教育的配慮から、そのようなワークショップがあっても不思議ではない。反対意見があっても構わないが、そのような意見があるからといって、ワークショップの開催を阻害するようなものでもない。
※	やるべきである	現時点で、研究不正や研究倫理に関する教育を責任を持って実施するシステムが無い以上、誰かがやらなければいけないのだらうと思います。必ずしも分子生物学会がやらなければいけないとは思いますが、危機感を持ってやっていただける姿勢に感謝します。明らかな不正は多くの人々が不正として認識して手を出さないとと思いますが、これも不正なの!?と思うことは多かれ少なかれあると思います。
※	やるべきである	会員の意識向上につながる。時に大学院生などの若手に対して。
※	やるべきである	学術発表のみに専念せよという方は専念すればよい。大規模な学会では多様性があるほうが良い。
※	やるべきである	学会の目的に即して必要な部分だけに絞ってやれば良いと思います。発表の場、意見交換の場として、不正な研究成果などの情報を流してもらっては困るわけなので、それを防ぐことは重要だと思います。
※	やるべきである	研究不正の原因について、日本の科学研究の体制も無関係ではないと思うから。
※	やるべきである	「学会は研究者の集まりであり」←この点が最もやるべきだと思う理由である。実際学術集会ほどの人数を集めれる機会を別途作るのは難しく、こういった多くの研究者が集う場所であるからこそ、研究不正や研究倫理に関する知識が浸透していくと思われる。
※	やるべきである	対策しなかったら、サイエンスそのものの存在意義が無くなる。不正は減ってないから。身内から出ても放置されてるし。
※	やるべきである	そもそも、研究不正の問題に対して、真摯に取り組まない研究者がいるとするならば、その研究者は研究をする資格がない。学会も同じで、きちんと取り組まないのに学会発表のみを行うなど、本末転倒。
※	やるべきである	前者の意見が理想的だが、現実的には学会員もからんでいる問題であり、学会員の大多数は血税を用いて研究しており、現在のようなひどい状況では社会に対する責任をもつように意識を高める必要があるのではないかと思う。前者の意見も理解できるが、その場合は学会以外のどこで研究不正への対応を進めるべきか、それがより効率的なのか聞きたい。
※	やるべきである	ただし、不正に関わった人物を指導的立場に据えてしまった分子生物学会の問題点を徹底的に検証するに留めるべき。繰り返しになりますが、そのデータ、どの論文が不正なものかを検証する必要は無いと思います。
※	やるべきである	研究者の集まり、というコミュニティですので、コミュニティ自体にプラスになるべきことは行うべきだと思います。しかしながら、第36回年会で研究不正や研究倫理に関するワークショップを行う前に、〇〇〇氏の事件について、氏が若手教育問題ワーキング・グループのメンバーでしたので、分子生物学会としての総括なりをする必要があると思います。さもなければ無責任ですし、今後行われるものについても無責任になる、と考えます。
※	やるべきである	不正が起きたときに、誰が主体になって第三者機関を立ち上げ、調査に乗り出すのか、と考えると、学会以外にないと思う。文部科学省に任せておいては、対応が鈍く遅くなることは必至だと思う。研究不正への対応を話し合い、決定しておくことは必要。
※	やるべきである	研究従事者への研究倫理の教育的な側面もあるから。
※	やるべきである	学会内部に対しても外部の社会に対しても、対策に取り組んでいるという姿勢を見せること自体が対策であり抑止力になる。
※	やるべきである	研究不正を未然に防ぐために有効であると思われる。
※	やるべきである	一堂に会する折角の機会を学術雑誌やオンラインでできる発表だけなんてもったいないです。より良い科学環境も目指して学会は動くべきと考えます。
※	やるべきである	学会として、研究不正や研究倫理問題への対応を示すこと自体が、社会にとっても研究者にとっても大きな意味があることだと思います。特に、該当問題への対策等を担う機関がない以上、研究者発の自助努力が必要であり、そのために、本アンケートはもちろんですが、年会における企画は非常に有意義だと思います。
※	やるべきである	研究不正について噂話レベルでなく、オープンな場で堂々と語るができるようにすることが、十分ではないが必要不可欠だと思います。不正は我が国の科学研究を根本から腐らせる大問題であり、全ての研究者が共有するべきだと思います。

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由やご意見
※	やるべきである	学会、特に分子生物学会のような影響力のある学会は不正の防止など社会的な活動も当然すべき。
※	やるべきである	学会は単なる発表会ではなく、研究者コミュニティを形成する場なので、研究以外の価値観を形成するのは重要だと思う。
※	やるべきである	Q14に書いたように、少しでも教育周知徹底が必要だと思うから。
※	やるべきである	少しは抑止力になる。
※	やるべきである	学会として組織されている団体であるのならば、研究発表の場のみの活動しか行わないのは責任を放棄していると思われたい。
※	やるべきである	真実を明らかにするのが、科学の本質ではないでしょうか？
※	ある程度はやるべきである	研究者だけでなく、学生の参加者に対する教育・啓蒙も必要だと考える
※	ある程度はやるべきである	若手には出席を義務付け、その際こんな事例があり、このような処罰を受けたという例を示す。総論的な夢物語だけでなく、上司にねつ造を強要された場合の対処法など、より現実に即した形でのワークショップ。
※	ある程度はやるべきである	年会は、研究発表の場であると同時に、研究者が抱える様々な問題を取り上げ、その合意形成を図る場であり、学会は、個々の研究者や大学では取対応できない、大きな問題を取扱い、社会や政府に対して提言すべきである。
※	ある程度はやるべきである	何が不正かを知らないと、不正は繰り返されると思う。いまや研究者は研究だけしていればいいという恵まれた世ではないので、時代に応じた(広い意味での)教育ワークショップは必要と思う。
※	ある程度はやるべきである	研究室の経営についての、良い方の循環はぜひ広めて欲しい。なぜ、うまくいくラボとそうでないラボができるのか、良い方法に持っていくための工夫に正面で取り組むような企画ならやってもいいと思います。
※	ある程度はやるべきである	少なくとも学会誌がそのような不正の場にならないように、投稿規定などはきちんとすべきであるし、そのための議論の場はあってもいいと思う。
※	ある程度はやるべきである	研究不正は研究に付随して起こるものだから、みなに注意を喚起したり、研究倫理を再確認してもらうためにも、学会の中で扱う事に意味はあると思う。
※	ある程度はやるべきである	制度の問題については、学会として提言する必要があると思うので。
※	ある程度はやるべきである	啓蒙活動として、所属の研究者に対して、何らかのアピールをする必要はあると思うが、本分は研究発表であるので、そちらに影響が無い程度にするべきだと思う。
※	ある程度はやるべきである	ワークショップの時間帯に研究不正や倫理観に関する企画を入れるのは、本来の学会の主旨とことなるし、そこへ参加した人は学術発表を聴く機会が奪われるため適切ではない。会長主導企画や男女参画企画などのシンポジウムの時間帯(昼時?)に行なうの方が良い気がする。もしくは、ポスター会場にてブースを設置し(ある程度大きなスペースが必要かもしれませんが)、誰でも気軽に出入りできるようにするのも面白いかもしれない。
※	ある程度はやるべきである	聞く、聞かないを選択するのは参加者なので、学会としてそういう門戸を開くのはいいのではないかなと思う。
※	ある程度はやるべきである	ガイドラインを示すようなものであれば、多くの来場者が見込める年会の場で行うことに意味はあると思う。
※	ある程度はやるべきである	コミュニティとして不正を許さず、仮に不正が明らかになった場合は学会から排除していくという姿勢をみせることが抑止力になると思うので。
※	ある程度はやるべきである	当初の会長の姿勢が、おもしろおかしく取り上げる雰囲気を含んでいたもので、非常に違和感を感じている。一方でタブーになってしまうのも良くないので、取り上げること自体は良いと思う。どのようなねつ造があったか事実が分かること、学生向けに、何はダメかの線引きをしてあげることは良いとおもう。
※	ある程度はやるべきである	教育的なものであれば良いのではないのでしょうか
※	あまりやるべきでない	私個人の見解は、学会は学術の場なので学術発表に限るべきと思っています。しかし、現在では学会に不正対策を求めているのが世論である気がしますが、学会の仕事では無いと思います。従って、「やるべき」とも「やるべきではない」とも決められず、中間意見を選択しました。
※	やるべきでない	自分の身を正すのがまず第一。Q15参照。
※	やるべきでない	「研究不正への対応は学会として重要」という考えが理解できません。研究者を雇用しているのは学会ではないでしょう。なんら権限を有しない学会がどうこう言える立場では無い気がします。
※	やるべきでない	意味はない。幹部会でやれば良い。文科省にExcuseしたいならやれば良い。
※	やるべきでない	捏造をするヒトはします。やっても意味がないので、やるべきではない。
※	やるべきでない	そもそもPIの資質が疑わしいので意味が無い。
※	やるべきでない	やるならば、不正対策の専門家の育成からやるべき。
※	やるべきでない	本人を連れてきて公開調査するのではなく、第三者のみで話をするのは時間の無駄。
※	やるべきでない	過剰。ヒステリー。やめるべき。
※	わからない	現在流布されている様々な疑惑を放置したままでは、どんな企画を考えても絵空事に過ぎない。

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由やご意見
※	わからない	どちらでも良い
※	わからない	学会の運営委員が必要だと思えばやれば良いと思う。
※	わからない	軽いセミナーと、それよりも個別の対応が良いと思う。研究者は、あまり知らない領域の人にメンションできない。



質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。＜複数回答可＞

回答者番号	回答	選んだ理由
※	PIの倫理教育	結局はPIの問題だと思います
※	PIの倫理教育	今までは統計の操作や図のフォトショップ処理など、バレやすい不正がおおかったが、これからはより手の込んだ不正が出てきかねない状況だと思う。
※	PIの倫理教育	分野の競争が激しく、PIが強引なときに研究不正が行われることが多いと思う。PIが期待する研究結果を(気の弱い)部下が無理矢理作ってしまう。
※	研究不正の背景	なぜ研究不正が起こるか、という根本的な原因を解決しなくては、研究不正はなくならないと思う。
※	研究不正の背景	大人の倫理観を変えるのは難しいです。変えれるとしたら研究者のおかれた環境なのではないでしょうか。
※	研究不正の背景	これまでの事例で「なぜ見抜けなかったか」および「なぜ発覚したか」という点を検証し、不正を起こす方法論について情報共有があったほうがいい。
※	研究不正の背景	不正の背景を正しく理解することが、まず肝心だともいます。
※	研究不正への対応策	研究不正を見つけても、対応策がわからない。
※	その他	現在流布されている様々な疑惑を放置したままでは、どんな企画を考えても絵空事に過ぎない。
※	その他	国内の状況だけでの話だと、コントロールが無い。コントロールの無いプレゼンを分生ですべきではない。若手→PI→終わり、というのでは変ではないですか？昨日、NPBの不正球の会見がありましたね、大分、叩かれているみたいですけど。学会のトップも、ああいう会見の場で、やり玉にあげられる可能性もあるのですから、不正とかだけでなく、幹部教育というものがあると思います。
※	その他	ヒステリーバカども。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正の背景	PIの意識改革、そして研究不正を生ずる構造改革は急務であると思います。若い世代の意識改革をいくら進めても、上の世代の意識や研究不正の背景となる構造が変わらなければ、軋轢に苦しむ若手が増えるだけだと思います。その上、研究不正問題への関心が低いPIの方々は、そういった経験をする機会に恵まれません。ただし、関心が高い方ばかりがいらっしゃる教育の場を設けても、底上げにどこまでつながるかは疑問なので、そういった意味では、研究不正の背景を明らかにしつつ、今後の対策を検討する場などが有効に思われます。
※	若手の倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	これからの若手には、やはり啓蒙活動は必要だと思う。一方で、不正行為を見つけてしまった場合、どのように対応するのが良いのか、分からない人も多いと思うので、その対応策を取り上げるのは良いことだと思う。
※	PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	1. だけを取り上げるのはやめていただきたい。学会のお偉い先生方からの、上から目線のありがたい説法など聞きたくもない。指導的立場にあるお偉い先生方が、きちんと取り組む姿勢を示さないのに、若手には教育を！なんて、若手は白けます。若手の任期付き問題と同じで、自分たちが任期付きにならないのに、若手にだけ任期を設けた構造と同じに見える。先ず隗より始めよ。そもそも、学生が研究室配属になった時、そんな現実があることなど思いもしないでいるはずであり、若手が不正に手を染めるようになるのは、その後のPIやラボからの影響が大きいのでは？
※	PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	研究不正がどの様にして起こるかをみんなで知り、対応策を練る事は大事だと思う。特にPIには積極的に参加してもらおうべきだと考える。
※	PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	現状や問題点を明確にしたうえで、議論があった方が良いと思います。また、不正は個人の問題だけでなく、組織としての問題でもありますので、若手よりはPIや研究リーダーとしての立場で話があると良いと思います。
※	PIの倫理教育/研究不正の背景/その他	筆頭に若手向けの教育、といわれますが若手は何が不正かよく知っていると思います。大学院生や若手が不正に荷担した場合でも、それは指導者の問題ではないでしょうか？最近の例でも、不正に荷担していたのはPI(とくに大教授)であることの方が多いですし、そうでない場合にもラボの監督者としてもチェックがなされていないため、PIの教育が必要不可欠です。大御所のPIは教育しても、されたくない方々でしょうが、敢えて若手を含めずにPI限定の不正対策企画のほうが有効ではないですか？
※	PIの倫理教育/研究不正の背景	個々人の問題は、個々人に任せ、大規模な学会しか取り組むことができない問題に焦点を絞るべき。それは、研究経費や学内の人事制度などの構造的な問題。学会として、大学や文科省に対してそれらの改革を提言すべき。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	何故不正をしようと思うのか、という背景をしっかりと認識した上で、それでも不正を行ってはいけないという倫理教育を行うべきかと。思わず不正の誘惑に負けてしまう背景があるのではないかと思うので。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	繰り返しますが、捏造問題の根底には、アカボス問題、ポスドク問題があるのは、自明の理です。
※	研究不正の背景/その他	教育というのは好きではない。決まったことを習うという一方通行なイメージが有るので。どうしたいという意見をそれぞれ個人が持てるようにしないと。
※	研究不正の背景/その他	不正についておおっぴらに語る事が出来る土壌を作ることが必要だと思います。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。＜複数回答可＞

回答者 番号	回答	選んだ理由
※	研究不正への対応策/その他	取り締まることに重点を置くのではなく、まっとうにすることの価値と楽しさをみんなで共有し、広げたい。研究不正の実例を聞きに行くモチベーションはあまりない(ワイドショーネタのような印象)。ケーススタディを多くできるような教材があれば、早期対策の参考になるからいいと思います。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	全部大切。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策/その他	研究者個人は不正を行っていないくても、所属している研究室のPI、その他関係者が不正に関わったために、誠実に研究を続けてきた研究者の立場が危うくなる。そのためにも、疑惑に対しては迅速な真相解明、もしくは解明まで至らなくても調査経過の開示(6か月ごとくらい)が必要なのではないでしょうか。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正への対応策/その他	不正の対応策をみんなで考えたい。厳罰化しか無いのか。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。＜複数回答可＞

回答者 番号	その他記述
※	現在流布されている様々な疑惑を放置したままでは、どんな企画を考えても絵空事に過ぎない。
※	不正から広がった波紋。
※	不正をした人の追跡調査。
※	これも不正なの!?と思う具体例の紹介
※	海外の状況を知りたい学会幹部の倫理教育
※	上司から不正(と思われる)データの改ざんを指示されたときに、助教やポスドクがどのように対処すればよいのか、そのサイババル術のワークショップなど。
※	研究費を配る人と貰った人の倫理教育
※	PIの上手な研究室経営について
※	研究不正、その後。ノウノウとポジションを得ていますっていうパターンと、人生棒に振ったってパターンと
※	被害者の救済。
※	不正に繋がりのデータの取扱い方など、若手研究者に対する教育
※	中途半端な企画ならしない方が良い。
※	自分の知る研究不正の実態について語る(匿名可)。
※	キャリアパスについて真剣に考えてほしい。(特にPI)
※	一切不要。
※	指導教授の倫理教育

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

回答者番号	回答	選んだ理由
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	どのように調査したか、知りたい。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	このアンケートの問13(特定の個人の問題か、構造の問題か)の答えを知っているのかもしれないと考えたので。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	どのような背景の研究者が不正を行ってしまったのか、そのような不正が行われていたのか、また、どのように調査が行われるのか、行われたのかを知りたい。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	特に〇大〇〇研の方に、〇〇〇〇氏の事件についてお聞きしたいです。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	不正について知る・語るが重要と思います。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	不正の実情と問題点を経験から知っておられると思うから
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	直接の不正を犯した者ではないが、不正により影響を受けた人、関係者。(匿名にしないと難しいの可能性もありますが)
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	まあ、お偉いさんは黙秘権を行使するでしょうが
※	トップジャーナルの編集者	トップジャーナルにも、再現性のない結果が山のように載っている。どのような対応をしているのか知りたい。
※	トップジャーナルの編集者	論文審査プロセスも含めて、不正をどうやって見抜くのか、何か対策を持っているのか、聞いてみたい。また、論文審査員の偏りなど、どの程度真剣に各雑誌編集者が考えているのか聞いてみたい。
※	研究費助成機関	研究不正が起こる可能性の一つとして、現在の研究費配分のシステムが、論文至上主義になっているためと考える事が出来る。審査委員がもっと時間を掛けて研究の内容を吟味し、良い研究に幅広く研究費を配分出来る様にシステムを変えていく必要があるのではないかな。
※	その他	現在流布されている様々な疑惑を放置したままでは、どんな企画を考えても絵空事に過ぎない。
※	その他	不正から広がった波紋、なので。
※	その他	最も事態が良くわかっているのだから
※	その他	NHK BSドキュメンタリーで Hendrik Sch&#246;n の大規模な研究不正に関する番組を作製した Director。多くの取材を通じての意見が聞けると思う。
※	その他	研究不正というよりは、研究活動に関わる不正について。大学などで行われている活動の中で、違法か適法か誰にもよく分からないグレーな部分は多い。例えば、職の公募においても、出来レースによってラボ内のポストを助教に、知り合いの助教を准教授に昇進させるなどは日常茶飯事である(みなし公務員ですので、手続きを踏んでいようがいまいが違法)。科研費に応募した申請書をちょっと変えて使い回して複数の科研費や民間の奨学金を得るなどもかなりよく聞かすが、これは取り方によっては詐欺ともいえる。このようなグレーな部分は普通は誰も突っ込まないが、誰もがおかしいと感じている。敢えてそういう問題を取り上げて欲しい。
※	その他	どうしてそうなったのか、本人からその背景を肉声で聞き出さないと対策がたてられない。本心を出してもらうために、処罰無し、責任を問わない、声のみの参加など工夫をする。
※	その他	そのうえで、上記4つのことを真剣に話し合う。
※	その他	取り締まることに重点を置くのではなく、まっとうにすることの価値と楽しさをみんなで共有したい。
※	その他	学会の責任者や調査責任者、編集者、助成機関、どれをとっても言い訳して終わるのは眼に見えてる。時間の無駄。議論が期待できる人物を呼んで欲しい。PS学会の責任者が〇〇さんなら話を聞きたいけど、理事長だったらノーサンキューです。
※	その他	そのワークショップで、何を上げたいのかによります。
※	その他	上記の1-4全員が、討論してほしいが、不正があった研究機関の調査関係者を糾弾するようになってしまえば、それは別の場所でやった方がよいように思います。また、misconductを行なった会員のワーキンググループ選定に携わった先生方に参加していただくのがよいと思います。これは、責任を追及するという意味でなく、学会の会員の論文不正にたいする関わり方の限界を確認する上で、良い機会になるとおもいます。私は、学会の努力により会員の論文不正を完全に防ぐ事は難しいという立場です。
※	その他	どのような対応をしているのかをお聞きしたいです。助成機関の話は所属機関のセミナー等でもよく聞いていますので、学会ではもう少し多角的にディスカッションをしていただけると助かります。

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

回答者 番号	回答	選んだ理由
※	その他	研究不正を行っていない人がどうこう言ってもしょうがない。なぜ、不正行為に走ったか、どういう精神状況だったか等、本人にしかわからないことを聞くことが大切。その情報をもとに、不正を未然に防ぐための対応策をディスカッションするのが一番。不正の発見方法や不正の厳罰化だけを話しても対処法でしかない。不正をさせないための環境作り等もディスカッションすべき。
※	その他	ヒステリー。病気か。

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

回答者 番号	その他記述
※	不正をした本人
※	なし。
※	不正をした本人
※	不正をしていないと論陣を張っている、不正をしたとされる当事者にご本人から直接ご説明いただく
※	社会学者。
※	不正を行った本人
※	不正が発覚し既に処罰を受け、反省を示している元研究者。or 研究室内の不正により(自分は関与していなかったとしても)悪影響を受けたスタッフ、学生の方。
※	疑惑の本人の弁明(ビデオ可)
※	アメリカのORI(Office of Research Integrity)の様子がわかる方海外(アメリカに限らない)の様子がわかる方
※	村松 秀
※	弁護士と文科省の大学運営担当者、研究者。
※	不正とみなされた論文のFirst author、Corresponding author、co-authorのそれぞれの立場から誰のどの行動が問題となったのか討論していただきたい。不正がおこるにはFirst authorだけ、あるいはCorresponding authorだけに問題があったとは考えにくく、背景にある構造的な問題を明らかにしていただきたい。
※	不正経験者
※	その会場で行われた、すべての成り行きを歴史に残すメディアや人を増やす。
※	研究ノートの積極的な活用方法
※	研究不正を見つけるプロの人、過去に研究不正をして人生棒に振った人、全く影響受けてない人。〇〇。〇〇
※	不正をした研究者
※	実際に不正してしまい、公に認めた人たち。もちろん、登壇する必要はない。
※	なぜ、不正を行った本人という選択肢がないのか？皆が一番話を聞きたいはず。
※	PIや研究リーダーとしての立場で活躍される方。
※	研究不正を行った当事者あるいは関係者(実際には人前には出でこれないであろう為、匿名化や、あらかじめ質問を行っておきそれを発表する形)
※	不要。



質問20. 第36回年会のワークショップの内容に関してのご要望やご意見

回答者番号	ご要望やご意見
※	なし。
※	もはや、分子生物学会でこんなワークショップをやっても意味が無いことは明白と思われませんが、それでも「やりましょう」と言っている意味から説明して欲しい。通り一遍の説明ではなく、もっと突っ込んだ背景説明が無いと、WS実施の意味が分からない。昨年みたいに研究発表セッションの時間と、研究倫理・若手啓発(?)WSの時間がかぶっているとかなり得ない。
※	ネッシーはどのくらいの経済効果だったろうか？ そうとうな観光客を呼び込んだと思うが。今回の富士山効果と比べるとどうでしょう？ ネッシーをプロテイングのX線フィルム、観光客を葉の売りに置き換えると、けっこう震える感じ。
※	研究者を陥れる目的での告発はやめてほしい。面白がって、インターネット上で大騒ぎして、話を2倍にも3倍にもふくらますようなことがあってはならない。
※	抜本的対策に結びつかないかもしれませんが、若手を対象に、何が不正か、どんな操作が不正になるのか、のレクチャー。PI、未来のPIを対象にどうしたら不正がおきにくい研究室環境を作れるかについてのレクチャーないしは討論会（明確な答えはないのですが、いろいろな意見が聞けるだけでも意味があるかと思います）。バイオ研究の構造的な部分は学会中のワークショップにはなじまないかもしれませんが、若い人の声を吸い上げるアクションがあるのは良いことだと思います >> 運営陣に汲み取っていただければ有益かもしれません。
※	Modern science cannot thrive on an obsolete bureaucratic system.
※	かつてNHK BSドキュメンタリーで Hendrik Sch&#246;n の大規模な研究不正に関する番組が放送されたい。著作権の都合で難しいかもしれないが、学会期間中に上映会を開いてもらいたい。
※	楽しく、はつとするワークショップを期待します。昨今のアベノミクスブームですが、日本の科学技術をあれだけ持ち上げる発言をしておきながら裏腹に現状では日本の研究現場が疲弊しほとんど崩壊しかけている現状を誰もが感じています。学会には、研究現場の声を集めて世間にも情報発信するという本来の主旨を貫徹して頂きたいと期待します。誰かが、perfumeよべば？と仰ってましたが、ゆるキャラでもperfumeでも、安室奈美恵でも呼んで、研究者の生の声を一緒に世間に届けてもらうのは悪いことではないと思います。また、逆に、世間からのリアルな声を研究者に届けるという、そういう企画でもあればよいですね。市民公開講座ではなく、研究なんてやって何の役に立つの？ そんなにお金かかるの？ そんなしんどい（無駄な）ことしてるの？ という声に真面目に耳を傾けて考える機会を持つべきだと思います。
※	先の質問にもありましたが、「研究不正や研究倫理に関するワークショップ」はやめた方がよいのではないのでしょうか。研究不正がだめなことはワークショップに参加しなくてもわかることです。せっかく研究者があつまるのですから将来の発展に寄与する生産性の高いものを企画されたほうがよいと思います。ちなみに、この企画ならびに参加者のかたは興味深いと思ってやられているのでしょうか？ 酒の席ですればよい話題なのではないかなという印象を持ちます。
※	このアンケートに答えてみて、改めて何を不正とするのか、という疑問が生じました。利益背反、無承諾のサンプル、画像の修正、統計のでっち上げ、などなど様々な不正が存在し、それぞれ背景がことなるのだと思います。もうすでに以前の学会で取り上げたのかもしれませんが、どなたか詳しい方に不正の分類分け？ とも言うべき解説をして頂けると理解が深まります。
※	分子生物学者の研究寿命を長くすることと技術員を増やすこととお金の流れを明確化することと関わった人のすべてをログに残しておくことをしてほしい。赤字だけど研究所と人間は過疎地に生えるマイクロエコノミーになりうる。
※	今はTwitterなどで一部はかなり風通しの良い状態になっていると思います。風通しの良さを良い方に活かしていければいい一方で、監視状態をきつくすることで隠蔽体質ができることも。程よく試行錯誤して、芽を摘む、悪い状態にならないように対策するというのが必要かと思います。
※	このアンケートをまとめるのは相当大変だと思うが、大変なことを避けて来たこれまでと比べるとすごい進歩だと思う。人数が多いことを言い訳にしたら、この学会は存在しない方が良いことになっちゃうから。〇〇さんは違うと、信じてる。少なくとも今は。
※	もし、不正に関わっていない研究者が論文を投稿、発表する場合、共著者に疑惑をもたれている研究者がいた場合、入れるべきか、外すべきか？ しかも、疑惑研究者のContributionが非常に限られている場合（例、研究のアイデアは不正に関わっていない研究者のものだが、短期間雇用され、そこで少し実験を行った場合、もしくは研究方針について日常的にディスカッションを行った場合）。研究者皆様のご意見をききたい。
※	不正はこれからもあるものという前提で、各国の事例などでより手の込んだ手法などを見せる機会があっても良いと思う。また、大学や研究機関は捜査機関ではないので、濡れ衣を着せることは絶対あってはならないのでその防止策も話し合っても良いかもしれない。
※	ワークショップに不正の疑いを持たれた会員を呼ぶべき。本人が語らなければ、周囲のガス抜きで終わるだけ。
※	今回のアンケート結果やワークショップの内容は、学会に参加しなかった研究者達にも有用だと考えられるので、学会会員全員に情報を発信し、共有するべきである。
※	分子生物学会は、misconductをおこした会員が指導的立場についていたということを検証し、なぜその会員が選ばれたのかを説明すべきで、その過程に問題があったか無かったか、考えを発表してほしいと思います。この点は、詳細な調査結果を待たず、〇〇氏が論文を撤回し監督責任者として辞職された事をもって、検証に踏み切れるのではないのでしょうか。この意見を表明するのがまず先決だと思います。分子生物学会が、論文不正の詳細を〇大とは独自に調査をするつもりが無いのなら（もしくは、独自調査をすべきか否かを話し合うのでなければ）、詳細な調査結果無しに〇〇氏の問題を念頭においたワークショップをするのは、意図が曖昧だと感じます。調査結果をまって、この問題を話し合っても良いと思います。私は個別の調査は該当機関がすべきだと思います。

質問20. 第36回年会のワークショップの内容に関してのご要望やご意見

回答者 番号	ご要望やご意見
※	特に無し
※	以前の若手教育問題ワーキング・グループ「〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇〇」のメンバーについて、論文捏造(〇〇)と犯罪(〇〇)で、2名が既に大学の職を辞しています。また他にも(論文不正の原因である)パワハラ疑惑があるメンバーが複数含まれています(〇〇、〇〇、〇〇)。そのようなメンバーを選んで若手教育問題ワーキング・グループをやっている事自体に問題がありますし、少なくとも表沙汰になった〇〇氏の事件に関して、ワーキング・グループをやっていたメンバーが論文捏造事件を起こしたこと、そのようなメンバーを選んだこと自体について、分子生物学会としての反省の弁なり姿勢なりが出なかった事自体が問題だと思います。そのことを知らないふりをして(臭いものには蓋をして)、研究不正のワークショップを行うことに無理があると思います。
※	個人の考え方と経験によって、不正の定義が異なる。例えば、数値データの解析ひとつとっても、外れた値を棄却するかしないかまで含め、不正と考えるか否か、研究者や研究室(指導者)によって大きく異なるように思う。定義や指針が明確になると、そのあたりの葛藤が減るように思う。
※	学会として不正を認めないという姿勢をしっかりと示してほしいと思います。不正が疑われる場合にどのような手順で対応すべきか、学会としての指針みたいなものを決められないでしょうか？
※	いい加減にしないで。働け。不正ワークショップ？阿呆か。くだらん。
※	学界の重鎮も、ぜひ2ちゃんねるをしっかりと読んでください。あそこには、我々バイオ底辺の本音と心の叫びが書かれています。